

車坂・山下遺跡

〔宮崎広域都市計画事業 車坂・山下土地地区画整理事業〕
に伴う遺跡調査概要報告書

1989

宮崎市教育委員会

序

宮崎市は近年、「宮崎サンテクノポリス構想」「宮崎日南海岸リゾート構想」「宮崎インテリジェント・シティ整備計画」等により、広面積をようする開発計画が打ち出され、又都市計画事業、農地基盤整備事業、区画整理事業等の新規事業が、計画の段階から、実施の段階に移行しようとしつつあります。そうした状況のなかで、文化財等の分布調査、試掘調査、本発掘調査が急増する傾向にあります。

本報告書は、そうしたなかでの宮崎市南部地区における、宮崎学園都市を中核とする周辺地域を、住宅地整備地区として「宮崎広域都市計画事業 車坂・山下土地区画整理事業」が計画され、その実施に先だて、埋蔵文化財等の分布調査を行い、その結果に基づいて遺構等の残存状況を把握するために実施した、試掘調査の報告書であります。

当該事業区は、清武川、加江田川に挟まれた、平坦な地形、自然環境を残す洪積台地でもあることから、遺跡の存在が確実視されており、試掘調査においても多くの遺跡の存在を確認することができました。

今後、年次的に実施される上記区画整理事業に伴い、事前の本発掘調査が必要となり、調査の指針となるものと考えております。

なお、今回の試掘調査は、車坂・山下事業区全域を対象としたため、地権者の皆様方のご理解、ご協力なしでは、到底遂行できなかったものと考えております。また、本事業推進委員会役員の皆様方並びに盛夏の時期に作業に従事していただきました担当者の皆様のご苦勞に心から感謝いたします。

平成元年 3 月

宮崎市教育委員会
教育長 柚木崎 敏

例 言

1. 本書は、「宮崎広域都市計画事業 車坂・山下土地区画整理事業」にかかる発掘（試掘）調査の報告書である。
2. 本調査は、昭和63年度に国庫補助・県費補助を受けて、昭和63年8月1日から同年9月22日までの期間で、宮崎市教育委員会が実施した。
3. 調査組織は次のとおりである。

調査主体	宮崎市教育委員会				
調査員	文化振興課	係長	野間重孝		
	〃	嘱託	荒武麗子		
調査補助	文化振興課	主事	浅井清		
整理補助	〃	嘱託	久富なをみ		
事務局	宮崎市教育委員会	教育長	柚木崎敏		
	〃	教育局長	守田達朗		
	〃	文化振興課長	野田卓郎		
	〃	課長補佐	松元正		

4. 本書の執筆は野間が行った。
5. 掲載した図面の実測、整図、及び図版の作成は、野間、浅井、荒武、久富が分担して当たった。
6. 写真撮影は、浅井が行った。
7. 本書の編集は、野間、浅井が行った。
8. 本書における出土遺物は、宮崎市教育委員会が保管している。

本文目次

第Ⅰ章	はじめに	1
第Ⅱ章	発掘調査の概要	3
1	遺跡の位置と環境	3
2	調査にいたる経緯	3
3	調査の方法とその概要	4
第Ⅲ章	調査区の概要	5
1号地調査区		5
(1)	1号地-1	5
(2)	1号地-2	6
2号地調査区		7
(1)	2号地-1	7
(2)	2号地-2	10
(3)	2号地-3	11
3号地調査区		13
(1)	3号地-1	13
(2)	3号地-2	14
(3)	3号地-3	15
(4)	3号地-4	17
(5)	3号地-5	18
4号地調査区		19
(1)	4号地-1	20
(2)	4号地-2	20
(3)	4号地-3	23
5号地調査区		24
(1)	5号地-1	24
(2)	5号地-2	25
(3)	5号地-3	27
(4)	5号地-4	29
6号地-1調査区		30
7号地-1調査区		33
8号地-1調査区		35
9号地調査区		36
(1)	9号地-1	36
(2)	9号地-2	41
(3)	9号地-3	43
10号地調査区		44
(1)	10号地-1	45
(2)	10号地-2	46

挿 図 目 次

第1図	車坂・山下地区遺跡位置図	2
第2図	1号地-1 グリッド配置図及び土層図	5
第3図	1号地-2 グリッド配置図及び土層図	7
第4図	2号地-1 グリッド配置図	8
第5図	2号地-1 土層図	9
第6図	2号地-2 グリッド配置図及び土層図	10
第7図	2号地-3 グリッド配置図及び土層図	12
第8図	3号地-1 グリッド配置図	13
第9図	3号地-1 土層図	14
第10図	3号地-2 グリッド配置図及び土層図	15
第11図	3号地-3 グリッド配置図及び土層図	16
第12図	3号地-4 グリッド配置図及び土層図	17
第13図	3号地-5 グリッド配置図及び土層図	18
第14図	4号地-1 グリッド配置図	19
第15図	4号地-2 グリッド配置図及び土層図	21
第16図	4号地-3 グリッド配置図及び土層図	22
第17図	4号地-1, 2, 3 出土遺物実測図	23
第18図	5号地-1 グリッド配置図及び土層図	25
第19図	5号地-2 グリッド配置図	26
第20図	5号地-2 出土遺物実測図	27
第21図	5号地-3 グリッド配置図及び土層図	28
第22図	5号地-3 出土遺物実測図	29
第23図	5号地-4 トレンチ配置図及び土層図	30
第24図	5号地-4 出土遺物実測図	30
第25図	6号地-1 トレンチ配置図	31
第26図	6号地-1 出土遺物実測図	32
第27図	7号地-1 出土遺物実測図	34
第28図	7号地-1 グリッド配置図及び土層図	34
第29図	8号地-1 グリッド配置図及び土層図	36
第30図	8号地-1 出土遺物実測図	36
第31図	9号地-1 土層図	37
第32図	9号地-1 トレンチ配置図	39
第33図	9号地-1 出土遺物実測図	40
第34図	9号地-2 グリッド配置図及び土層図	41
第35図	9号地-2 出土遺物実測図	42
第36図	9号地-3 トレンチ配置図及び土層図	44

第37図	10号地-1	トレンチ配置図	45
第38図	10号地-1	出土遺物実測図	45
第39図	10号地-2	トレンチ配置図及び土層図	47
第40図	10号地-2	出土遺物実測図	47
第1表	車坂・山下地区	試掘調査地区一覧表	1

附 図 車坂・山下試掘調査区図

図版目次

図版 1	1号地-1 調査区全景	6
図版 2	1号地-2 調査区全景	6
図版 3	2号地-1 調査区全景	9
図版 4	2号地-2 調査区全景	11
図版 5	2号地-3 調査区全景	11
図版 6	3号地-1 調査区全景	14
図版 7	3号地-2 調査区全景	15
図版 8	3号地-3 調査区全景	15
図版 9	3号地-4 調査区全景	17
図版10	3号地-5 調査区全景	18
図版11	4号地-1 調査区全景	19
図版12	4号地-2 調査区全景	20
図版13	4号地-3 調査区全景	21
図版14	5号地-1 調査区全景	24
図版15	5号地-2 調査区全景	26
図版16	5号地-3 調査区全景	27
図版17	5号地-4 調査区全景	29
図版18	6号地-1 調査区全景	31
図版19	7号地-1 調査区全景	34
図版20	8号地-1 調査区全景	35
図版21	9号地-1 調査区全景	39
図版22	9号地-2 調査区全景	41
図版23	9号地-3 調査区全景	43
図版24	10号地-1 調査区全景	45
図版25	10号地-2 調査区全景	46
図版26	4号地-1, 2, 3 出土遺物	49
図版27	5号地-2 出土遺物	49
図版28	5号地-3 出土遺物	50
図版29	5号地-4 出土遺物	51
図版30	6号地-1 出土遺物	51
図版31	7号地-1 出土遺物	51
図版32	8号地-1 出土遺物	52
図版33	9号地-1 出土遺物	52
図版34	9号地-2 出土遺物	53
図版35	10号地-1 出土遺物	54
図版36	10号地-2 出土遺物	54

第I章 はじめに

宮崎市は、宮崎市中心部から南に約9.5kmに位置する宮崎大学を核とした宮崎学園都市の南に隣接した、東西1.6km、南北0.6km、面積約40.8 haの南傾斜の地区を「宮崎広域都市計画事業車坂・山下土地区画整理事業」として計画している。

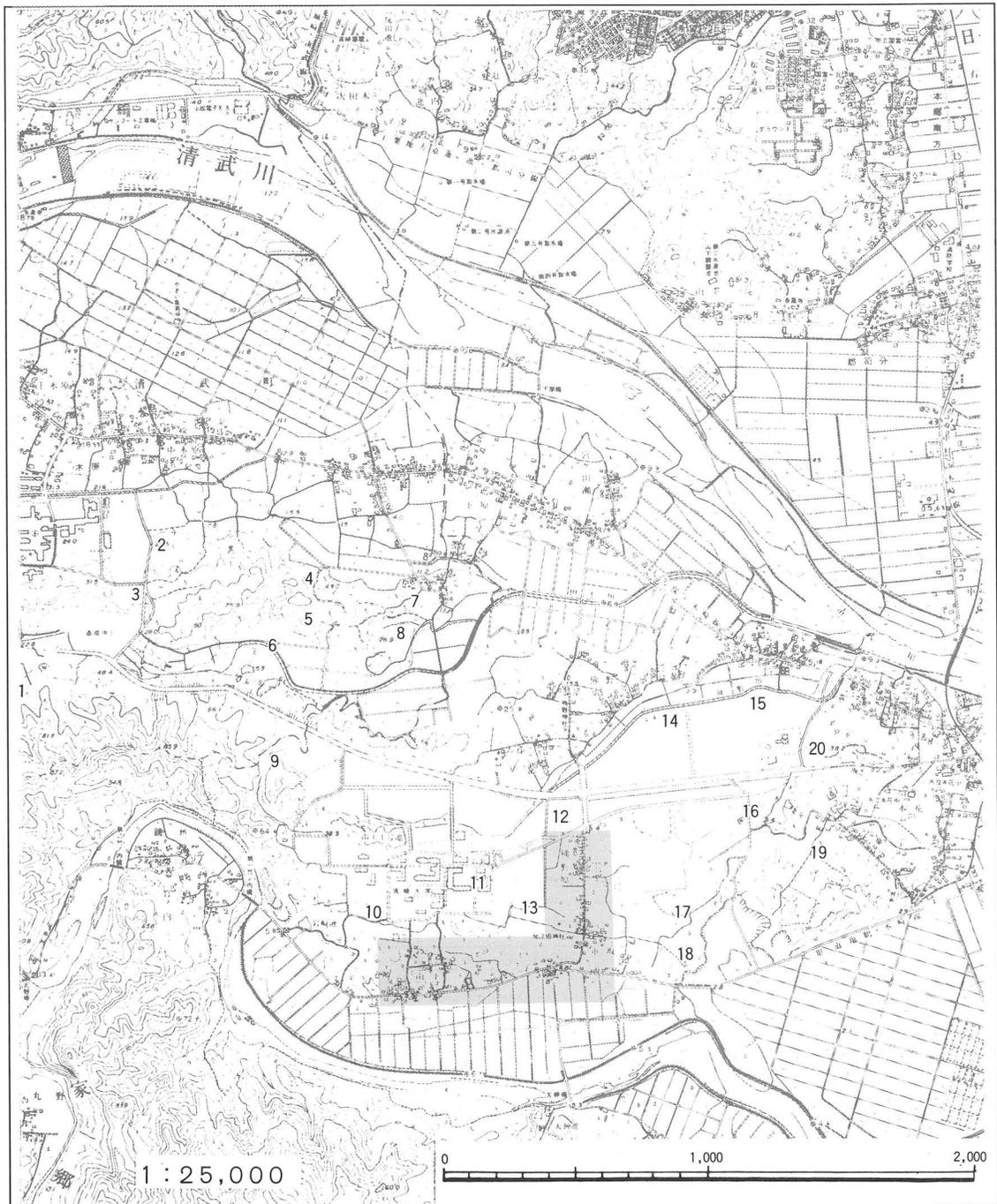
当該地は、宮崎学園都市建設にかかる宮崎学園都市遺跡群の周辺部に位置しており、関連する遺跡群が分布することは必至である。かかる車坂・山下地区における分布調査を事前に実施し、その結果から1号地～10号地に分割して、遺跡確認発掘調査を実施してきた。

その結果は、下記一覧表のとおりであり、今後事業の推進にあたっては、本発掘調査が必要である。

記

車坂・山下地区試掘調査道地区一覧表

地区番号	地	番	遺構	遺物
1号地-1	8144-イ	8143 8140-1 8141-3 8142-1, 2	溝状遺構等	弥生, 土師器片等少量
1号地-2	8156	8157 8158 8159	黒色落ちこみ	土師器破片
2号地-1	8134-2	8134-4 414	溝状遺構	無
2号地-2	9183	9188-1, 2 9189-1, 2 9190-1, 2 9191-1, 2 9192-1, 2 9193-1, 2, 3, 4 9194 9195 9174 9175 9176	黒色落ちこみ	須恵器片等
2号地-3	437 438 439 440 441 442 443 430 429 428 427 426 425 424 444-1		溝状遺構	須恵器片
3号地-1	410 411		溝状遺構, 住居趾	土師器片
3号地-2	337-3		溝状遺構	無
3号地-3	7989 7993 7991 7994 7992		溝状遺構等	縄文(?)土師器片
3号地-4	8112-1 8113 8107 8106-1, 2 8108 8109-1, 2		溝状遺構 住居趾(?)等	土師器片
3号地-5	8128 8129 8131		溝状の落ちこみ	無
4号地-1	470 471		住居趾等	黒曜石, 焼石 弥生・土師器片
4号地-2	462-2		中世土墳墓ほか	青磁, 土師器片
4号地-3	452 460-2 453 454		住居趾(?) 黒色落ちこみ	青磁片 土師器片少量
5号地-1	344 345 346 347 348 364-1 362-1, 2		無	無
5号地-2	477-3		住居趾(?) ピット	黒曜石, 焼石 縄文・弥生土器片
5号地-3	478-1		住居趾(?) ピット	黒曜石, 焼石 縄文・弥生土器片
5号地-4	396 397		住居趾 溝状の落ちこみ	弥生土器片
6号地-1	508-1 509 506-3 508-3, 4, 5		集石, 住居趾	黒曜石剝片, 焼石 石匙, 弥生土器
7号地-1	522-4 525-1 521-1		住居趾	縄文・弥生, 土師器片
8号地-1	532 534-ハ 534-ロ		黒色落ちこみ 礫層あり	土錘, 土師器片少量
9号地-1	527-6		配石遺構 黒色落ちこみ	青磁, 土師器
9号地-2	254 255 256 257 257-1 258		溝状遺構 黒色落ちこみ	縄文土器片, 石器 石錘, 土師器片
9号地-3	533-1, 2		溝状落ちこみ	土師器片, 礫
10号地-1	531-ロ		集石 黒色落ちこみ	石器, 縄文土器 土師器片
10号地-2	531-イ 530-2		黒色落ちこみ	土師器片



宮崎学園都市周辺遺跡

- | | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 山内石塔群 | 2. 下田畑遺跡 | 3. 赤坂遺跡 | 4. 小山尻東遺跡 | 5. 浦田遺跡 |
| 6. 入料遺跡 | 7. 小山尻東遺跡 | 8. 田上遺跡 | 9. 堂地西遺跡 | 10. 平畑遺跡 |
| 11. 堂地東遺跡 | 12. 熊野原遺跡 | 13. 犬馬場遺跡 | 14. 前原西遺跡 | 15. 前原北遺跡 |
| 16. 前原南遺跡 | 17. 陣ノ内遺跡 | 18. 車坂城跡 | 19. 木花遺跡 | 20. 今江城跡 |

第1図 車坂・山下遺跡位置図

第Ⅱ章 発掘調査の概要

1. 遺跡の位置と環境

車坂・山下地区は大字熊野に属し、北は清武川、南は加江田川に挟まれ、鰐塚山系の北東部から延び出す洪積台地の末端部に位置する。

地区北東部から台地上に標高約15mの平坦地が発達し、北方に隣接して、宮崎学園都市遺跡群が知られている。

宮崎学園都市縁辺部は、東及び南方向に緩く傾斜しており、また、台地の南側は県道塩鶴・木崎線まで、標高20～25mの傾斜地となっている。

地層は、段丘堆積層が宮崎層群に囲まれた凹地に堆積し、下層から上層へ砂礫層、粘土層、砂層（シラス層を含む）、ローム層で構成されている。

これら各地層の内帯水層が、下層の砂礫層と上層の砂層であるため、地区南側傾斜地に地下水の湧水が多数見られる。

地区の大半が農用地及び山林であり、住宅地は地区面積の12%強を占めるにすぎず、そのほとんどが県道塩鶴・木崎線及び市道熊野通線沿いに集落を形成している。

2. 調査にいたる経緯

宮崎市では、宮崎サンテクノポリス構想で住宅整備地区に予定している本地区を、宮崎学園都市整備事業に連動する公共施設の整備改善並びに宅地の利用増進を図るため、「宮崎広域都市計画事業 車坂・山下土地区画整理事業」を計画し、昭和61年4月8日に国の都市計画決定を受けている。

計画区域は、宮崎学園都市建設に伴って昭和55年度～58年度に発掘調査された宮崎学園都市遺跡群に隣接する地区であることから遺跡の立地が確実視されていたため、現地踏査による分布調査を昭和62年5月28日、29日の2日間実施している。

その結果、特に本区域は、宮崎学園都市遺跡の平畑遺跡、陣ノ内遺跡、熊野原遺跡、犬馬場遺跡と近接し、若しくはこれらの遺跡を含んでいることが知られた。

調査区内は、大別して、畑、水田、山林、みかん園、住宅等に分けられるが、耕作等により遺物の露頭する畑や水田については比較的遺構の存在をとらえやすいものの、みかん園、山林については、耕作の規模も小さく、表面調査のみでは明確にしにくい面があった。しかしながら、調査区内のみかん園はすべて丘陵の南緩傾斜面で、眼下に河川も流れている良好な立地環境を備えており、遺跡の存在の可能性は高いものであった。

このことから、今後の試掘調査に備えて計画区域東部にあたる車坂地区においては、北方から1号地～5号地、南西部にあたる山下地区においては、西方から6号地～10号地に分割した。

昭和62年度に、当該区域内の埋蔵文化財試掘調査を実施することを決した。

昭和63年7月5日、試掘調査着手に先だって農用地の作付け状況の調査を実施し、同年7月

18日、19日に地権者に対して調査の説明会を実施した。

そうした経緯を踏まえて、8月1日に試掘調査に着手し、9月22日に現場作業を終了した。

3. 調査の方法とその概要

分布調査により、事業区内を1号地～10号地に分割しており、宅地、道路及び急傾斜地、それに明らかに旧地形が大きく削平されている箇所については、調査対象外とした。

調査区の大半が農用地であり、農作物が作付けされている土地がほとんどであったため、当初は、作付けのなされていない土地からの発掘調査を実施、徐々に作物収穫後の土地を選んでの調査となった。作付けの関係上、調査を実施できない土地も多分にあった。しかし、隣接地の調査を実施することに努め、遺跡の存在確認については、支障をきたさなかったように思える。

調査対象となる土地は、大半が広面積であるため、10m四方のグリッドを組み、その交点に2m×2mのトレンチ掘りを行った。

小面積の土地については、土地状況により縦、横に長いトレンチを設定して調査を進めた。

発掘調査は、まず、表土（耕作土）を剥ぎ、順次土層を確認しながら掘り下げて行った。

車坂地区においては、大半が耕作土下に赤ホヤ層が露出したが、浅いところでは、10cm内外であり、深いところでも30cm程度であった。こうした赤ホヤ層までの土層が浅い地区においては遺構の確認も難しく、また、遺物の検出もほとんど見受けられなかった。したがって、大半のトレンチでは赤ホヤ層上面までの発掘で終了しているが、一部のトレンチは確認のため赤ホヤ層を掘り抜き、下部層まで掘り下げたが、1号地、2号地、3号地においては、約1m～1.2m程度まで下げると湧水を見る箇所が多かった。4号地、5号地においては、土層もしっかりしているところが多く、住居跡と思われる遺構の確認もあり、それらに伴って、遺物も良好な状態で検出されている。

山下地区は、大半がみかん園であり、限られたスペースでの発掘調査であったが、南緩傾斜地でもあることから特に、6号地では住居跡や集石遺構を確認している。7号地、8号地、9号地、10号地でもそれぞれ遺構の存在可能性は高かったが、特に、山下地区においては、集石遺構の存在が強く窺われる。

第三章 調査区の概要

事業計画区域の車坂地区を1号地から5号地、山下地区を6号地から10号地と分割して、試掘調査を実施した。

各調査の概要は、下記のとおりである。

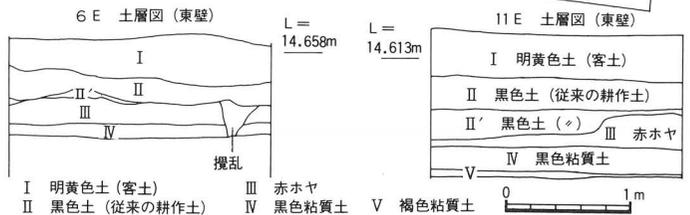
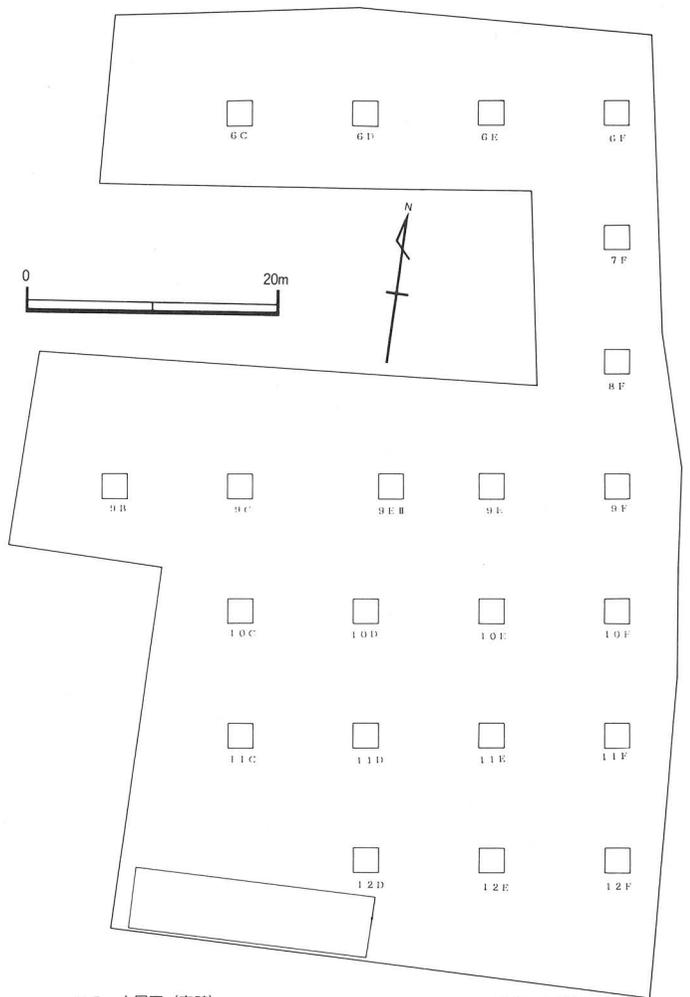
1号地調査区

字熊野原にあって、熊野神社から加江田神社に通じる旧街道の東に位置し、事業計画区域の東北にあたる。街道に沿って、東側宅地が南北に並び、さらに、東側は農地として開けている。特に、みかん園の占める面積が大きく、調査可能区域は限られていた。したがって、宅地とみかん園を外したスペースに調査区を設定し、畑地境による西側を1号地-1とし、それに接して、東側畑地を1号地-2とした。1号地-2の東は傾斜地となり、事業区外となる。

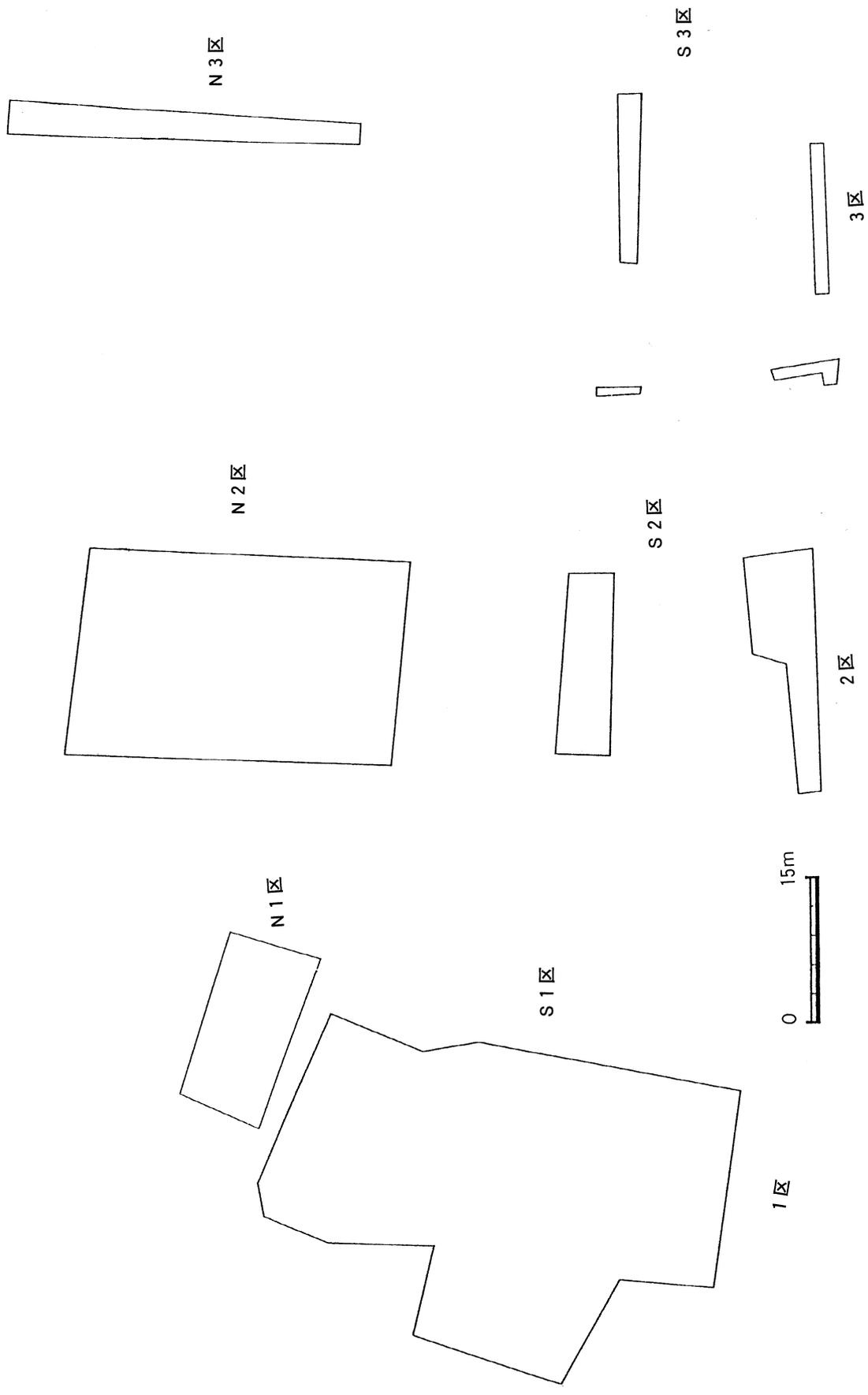
(1) 1号地-1 (8144番地イ外)

位置 事業区中央部を南北に走る旧街道の北部にあって、東側に宅地が並び、その東側に位置する。畑地は、東方向にわずかに傾斜している。

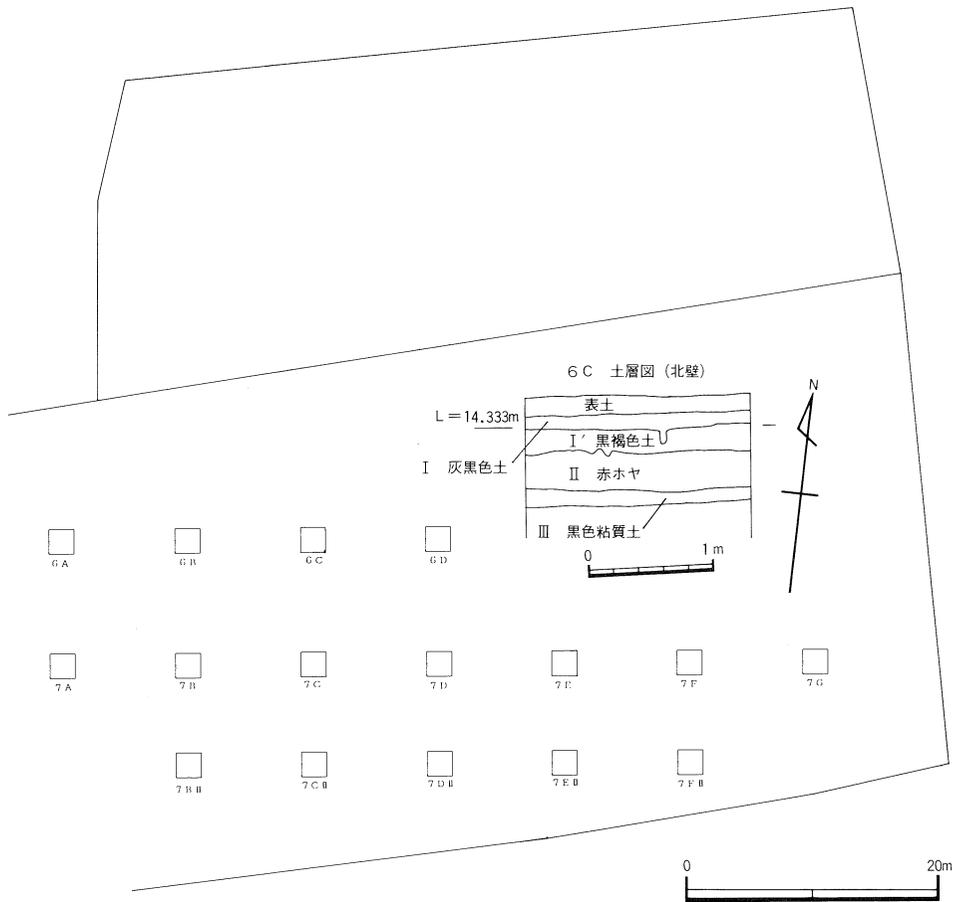
試掘グリッド 調査可能畑に10m設 **定** ×10mのグリッドを組み、南北軸をアラビア数字、東西軸をアルファベットでグリッド名を表示した。それぞれの交点に2m×2mの試掘グリッドを20箇所設定した。



第2図 1号地-1 グリッド配置図及び土層図



第4図 調査区図



第3図 1号地-2 グリッド配置図及び土層図

2号地調査区

字熊野原の一部及び犬馬場に属し、熊野神社から南に通じる旧街道の東側に位置する。街道の東側は、1号地の延長として宅地が連なる。宅地の東側には農地が広がり、畑地のほかみかん園が存在する。畑地は南に向かって緩傾斜地となり、東側縁部は東傾斜のほか、小谷が入り込む。

2号地は、車坂事業区の東側中央部にあたり、宅地、みかん園、小谷等は調査区から外し、北側西部を2号地-1、その東、農道を挟んで2号地-2、小谷を挟んで南東部端に2号地-3を設定している。また、2号地南東部は陣ノ平遺跡に接する。

(1) 2号地-1 (8134番地2外)

位置 旧街道に沿った東部に位置し、長友歯科医院の北及び東に広がる畑地である。

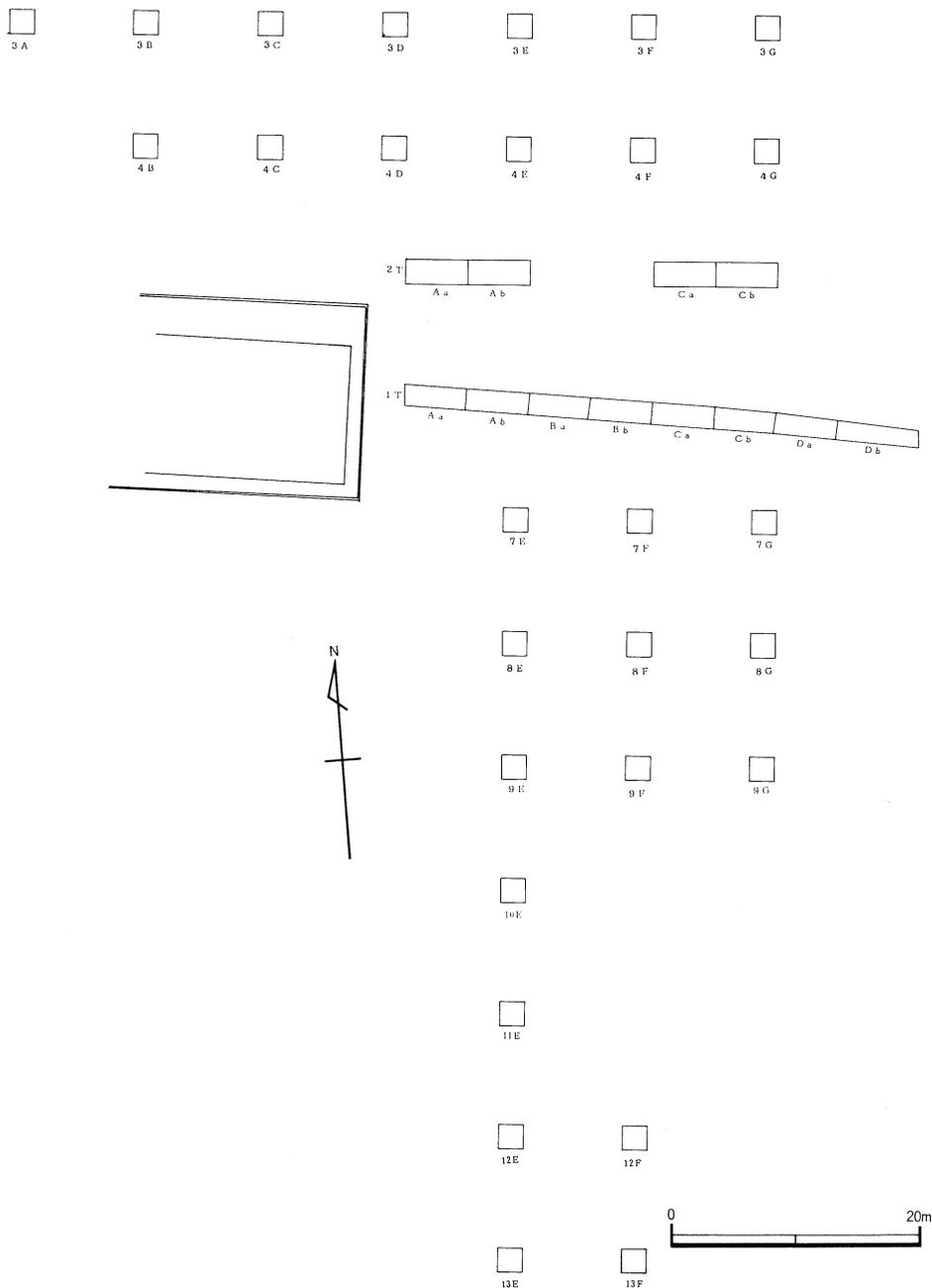
試掘グリッド設 調査区の中央部長友歯科医院の東側において、任意に東西方向に掘削機械による表土剥ぎを行い、その後、南北2m東西10mのメッシュのトレンチを設定

し、西から1 T-A～1 T-D区とする。

その後、北側に10m離れて、平行に2 m×10mの2 T-A、2 T-Cを設定する。

なお、1トレンチは10mメッシュをさらに5 m区切り、赤ホヤ層上面まで掘り下げ、さらに2.5 mを区切って、赤ホヤ層の下部まで掘り下げた。

なお、その後になって、北及び南に接する畑地についても、地権者からの発掘調査の承諾が



第4図 2号地-1 グリッド配置図

得られたため、1 T、2 Tを含めた形で調査区全体を10m×10mのグリッドに組み、それらの交点を2m×2mの試掘グリッドとした。(先行した1 T、2 Tはそのまま生かすことにした。)

南北軸をアラビア数字、東西軸をアルファベットでグリッド名を表示し、2m×2mの試掘グリッドを28箇所設定した。

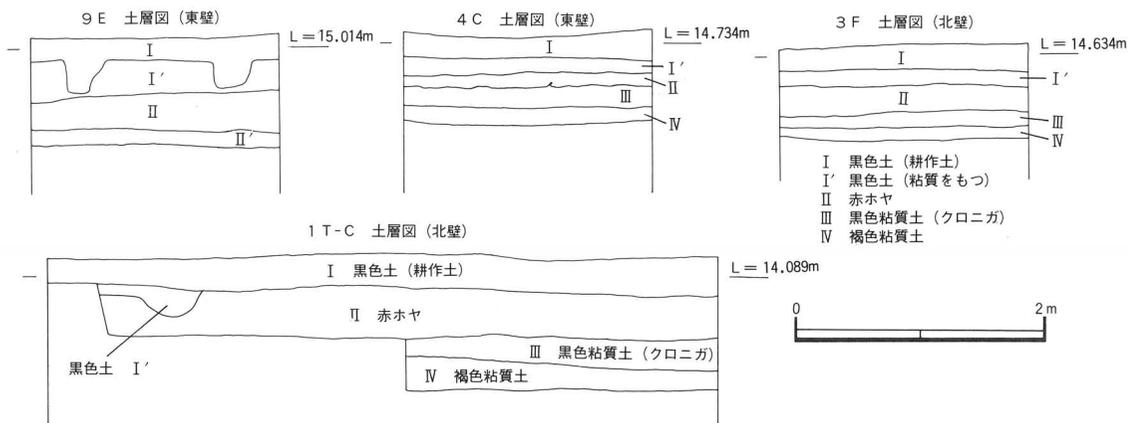


図版3 2号地-1 調査区全景

土 層 3 F、4 C、1 T-C

C、9 Eの土層図を作成しているが、

大きな変化は見られない。表土をI、I'層に分けており、約30cmを測る。I層は、純然たる耕作土であり、I'層は黒色土でやや粘りのある土層をしている。II層は赤ホヤ層で、やわらかくパサパサとした感じである。III層は黒色粘質土層が入り、IV層は褐色粘質土層となり、ともにシラスを混入している。III層からIV層への層境は、明瞭に区別することはできないが、IV層の下部になると黄色土が斑点状に混在し、湧水が見られる。



第5図 2号地-1 土層図

遺 構 明確な遺構の検出はないが、3 E、4 D～4 G、7 F、8 E～8 Gに黒色土の落ち込みが見受けられ、4 D～4 G、8 E～8 Gグリッドにおいては、溝状遺構と思われるものが確認されている。

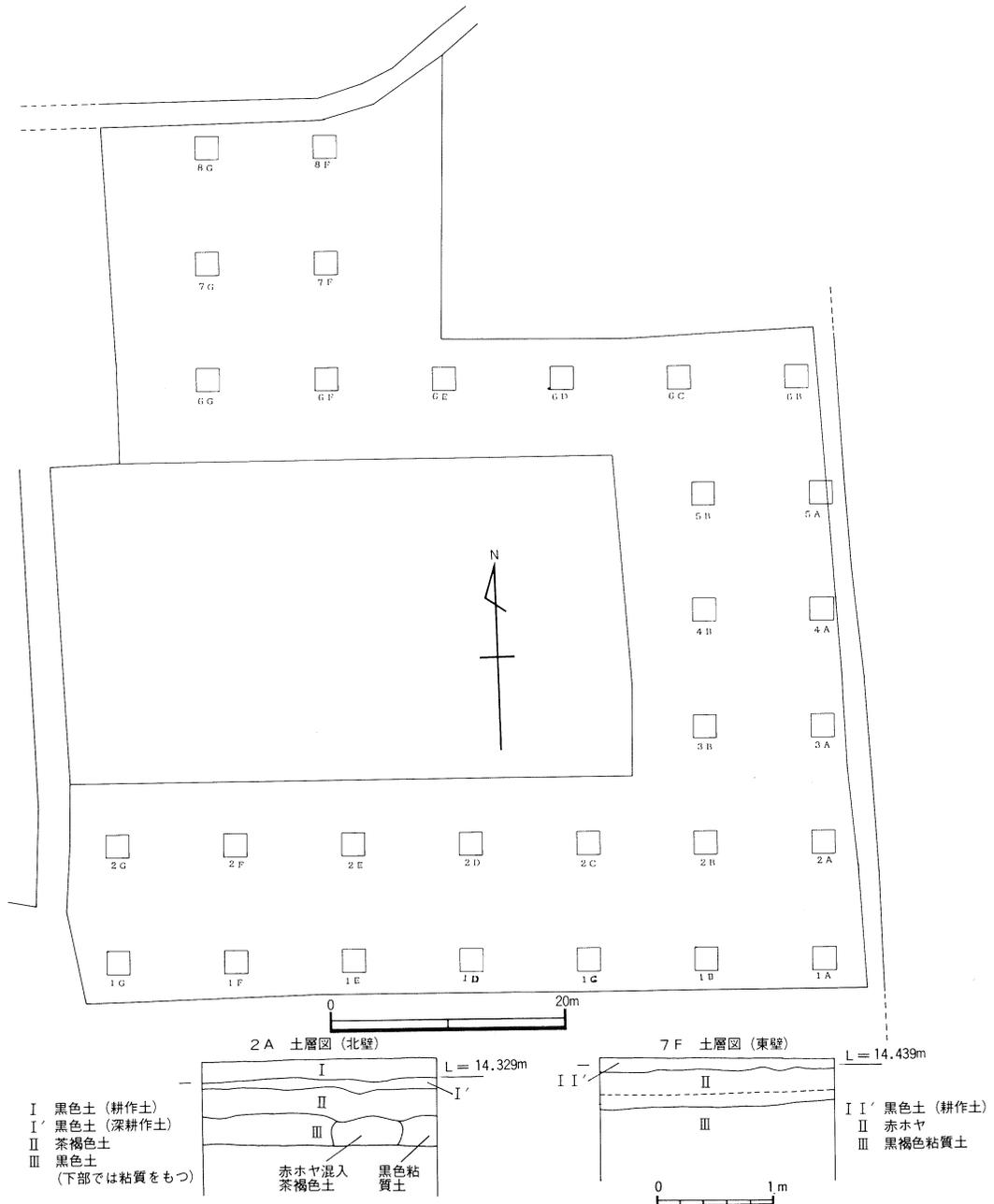
なお、表土下は約30cm内外で赤ホヤ層になるため、プライマリーな土層を確認することは難しく、遺構等の残存の可能性は薄いものと考えられる。

遺 物 遺物はほとんど無い状況であった。

(2) 2号地-2 (9183番地外)

位置 2号地-1調査区の東に農道を挟んで、中央部のみかん園を囲む、コの字形の調査区となり、調査区東側縁部は緩傾斜となり、事業区外となる。また、北側には小谷が入り込む。

試掘グリッド 調査区はみかん園を囲むコの字形になるが、全体を10m×10mのグリッドで組
設 定 み、南北軸をアラビア数字、東西軸をアルファベットでグリッド名を表示した。



第6図 2号地-2 グリッド配置図及び土層図

それぞれの交点に2 m×2 mの試掘グリッドを30箇所設定した。

土 層 2 A (北壁セクション)、7 F (東壁セクション) の土層図を作成している。

2 Aグリッドでは表土層をI、I'層とし、I層は耕作土で、やわらかい黒褐色土層であり、I'層はバサバサとしたやわらかい黒色土層となっている。

この調査区では、全体的に表面より20cm~40cmの深さに赤ホヤ層が堆積しているが、ところによってはとばされている箇所も見受けられる。

このグリッドでは、土壌と思われるような掘り込みが見受けられ、II層にふわふわしたやわらかい茶褐色土層が入り、III層に黒色土(上部はやわらかく下部で粘質をもつ)、赤ホヤ混入の茶褐色土層、固くて粘りのある黒色粘質土層がブロック状に埋土されている。

7 Fグリッドは、表土のI、I'層は薄く、明確に分けることはできないが、部分的に薄く残る。

II層に赤ホヤ層が入り、上部は純赤ホヤ層であり、下部では少しザラザラした粗い粒子が混じり、黄色を増す。III層は黒褐色粘質土層(ニガ土)となる。

遺 構 2 Aグリッドで土壌らしい落ち込みが見受けられるが、時期については不明である。その他1 D、4 A、6 D、6 Gグリッドに黒色土の落ち込みが見受けられるが、遺構としての性格付けは困難なようである。

遺 物 わずかに須恵器片数点及び近世陶磁器片が出土したのみであり、プライマリーな状態での出土遺物は見受けられなかった。



図版4 2号地-2 調査区全景

(3) 2号地-3 (437番地外)

位 置 加江田神社の北端から東に入り込む道路が150mでT字に分岐する東北側に1段下がった畑地が調査区にあたり、東側に接して、車坂城跡がある。

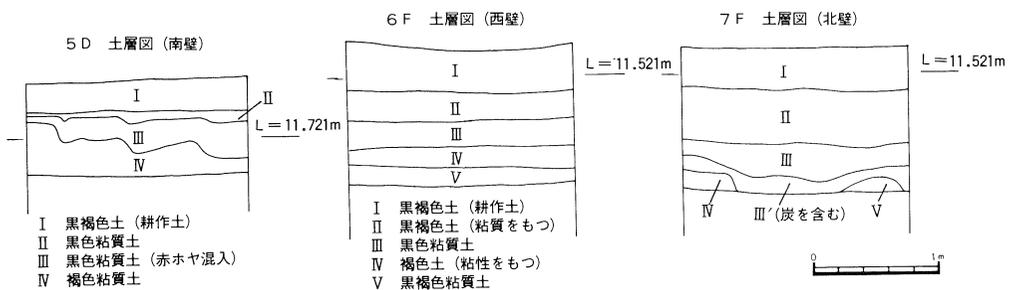
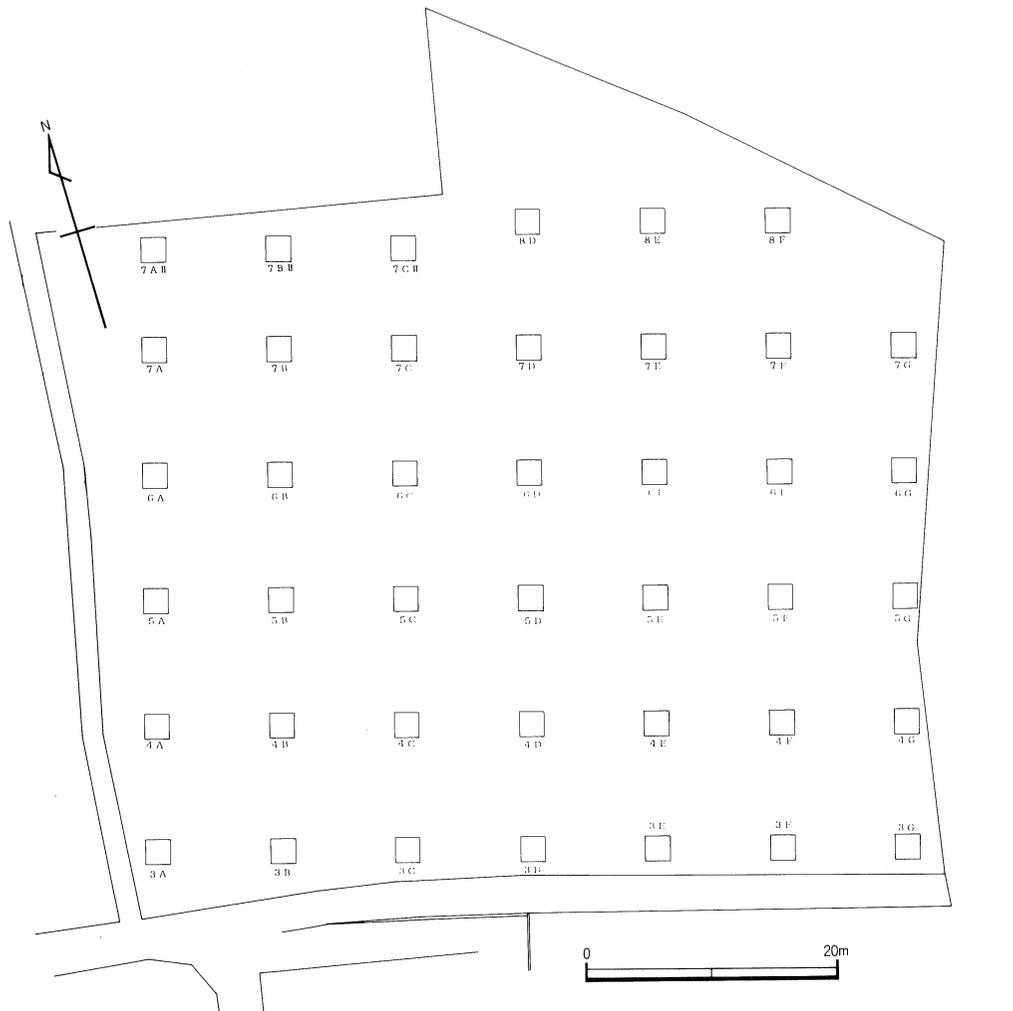
試掘グリッド 設 定 広大な畑地のため、10m×10mのグリッドを組み、南北軸をアラビア数字、東西軸をアルファベットでグリッド名を表示し、それらの交点に2 m×



図版5 2号地-3 調査区全景

2 m の試掘グリッドを41箇所設定した。

土 層 調査区西側において耕作土が薄く、直下に赤ホヤ層が露出するが、東にいくにしたがって赤ホヤ層までが深くなる。表土下30cm~40cmの深さになると赤ホヤ層の下部層がわずかに残る状態となり、さらに東にいくと完全に赤ホヤ層はとばされてしまう。



第7図 2号地-3 グリッド配置図及び土層図

6 F 西側セクションでは、I 層に黒褐色からやや褐色に変化するやわらかい土層があり、II 層に粘質をもった黒褐色土層が入る。III 層に黒褐色粘質土層、IV 層に粘りのある褐色土層、V 層にかたくしまった黒褐色土層が入る。

遺構 3 B、4 A、4 B、6 B、7 A II、7 B II グリッドに溝状遺構が見受けられ、東側においては、城跡との関係をもつものと思われる遺構が存在する可能性が強く感じられた。

遺物 遺構と思われるものに伴った遺物は検出されていないが、須恵器片や近世陶磁器片が数点出土している。

3号地調査区

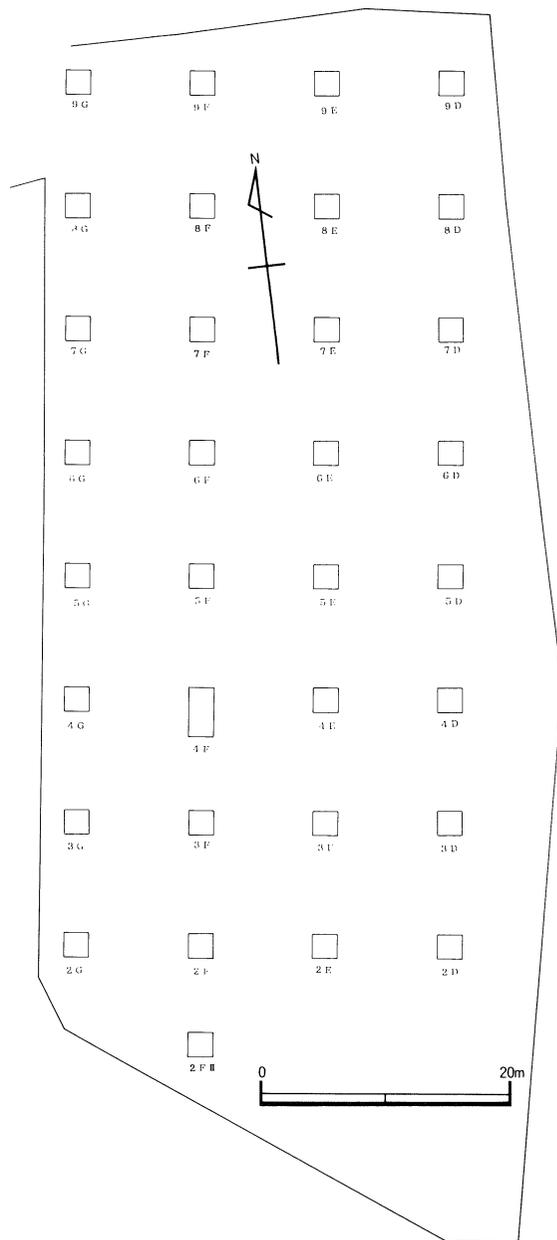
字熊野原に属し、熊野原から南に通じる旧街道の西側に位置し、事業区の西北部にあたる。西側は宮崎大学グランドと接する。東側は旧街道に接し、宅地が南北に連なる。宅地の西側には広大な畑地が広がっており、みかん園等は見受けられない。作付けの関係から全面調査は不可能であった。

加江田神社の北側に入り込む農道があり、約80mでT字路となって、北側に延び、さらに西に延びる道路によって3号地調査区と5号地調査区を分割している。

この道路に接して、北方向に長い長方形形状の畑地を3号地-1、3号地-1の西畑地1枚をおいて小範囲の3号地-2、3号地-1北西角に接して北に長い畑地を3号地-3、3号地の北西部に3号地-4、3号地中央部、旧街道に接して西に長い畑地を3号地-5と調査区を設定している。

(1) 3号地-1 (410番地外)

位置 3号地調査区の南中央部に位置し、畑地は南東方向に緩傾斜となっている。



第8図 3号地-1 グリッド配置図

試掘グリッド 南北に長い長方形状
設 定 の畑地であり、10m
 ×10mのグリッドを組み、南北軸を
 アラビア数字、東西軸をアルファベ
 ットで表示し、それぞれの交点に2
 m×2mの試掘グリッドを33箇所設
 定した。

土 層 6 F (東壁セクショ
 ン) 3 F (東壁セクション) の土層
 図を作成している。

6 Fグリッドでは表土層をI、I'
 層とし、I層は黒褐色土層で純然た
 る耕作土層である。I'層は赤ホヤ混入の黒色土層であり、
 深耕の際の耕作土層である。

II層は赤ホヤ層であるが、深耕によってかなり乱れている
 状況にある。

III層は黒色粘質土層 (クロニガ) で、固く漆黒色の粘質ブ
 ロック及びシラスを含む。

IV層は褐色粘質土層であり、固粘質土でシラス層を含む。
 また、黄色火山灰土層を斑点状に含むブロックが見受けられ
 る。

IV'層は黄褐色土層となり、黄斑点状のブロックを含むこ
 とは同様であるが、土質がやわらかくなっている。また、下
 部層になると湧水が見受けられる。

遺 構 深耕による赤ホヤ層上層部あたりまでは乱れ
 ているが、赤ホヤ層上面において各グリッドに黒色土の落ち
 込みが見受けられ、溝状遺構及び住居跡と思われる遺構の存
 在が窺われる。赤ホヤ層下の時代遺構の存在可能性は薄い。

特に、住居跡と思われる落ち込みは9 D～9 Gにあたる調査区北東部に見受けられる。

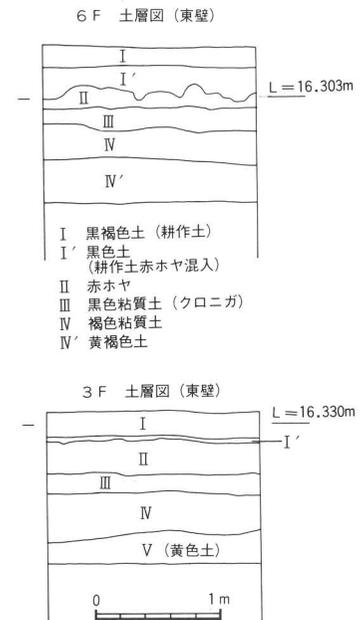
遺 物 プライマリーな状態での遺物の検出は見受けられず、少量の土師器片のほか近
 世陶磁器片等が出土している。

(2) 3号地-2 (337番地3)

位 置 3号地調査区の南西角部に位置し、宮崎大学グラウンドのバレーコートが西に接
 する。南東方向にわずかな傾斜をもち、南は道路を挟んで落ち込む。



図版6 3号地-1 調査区全景



第9図 3号地-1 土層図

試掘グリッド 調査区が40m内外の
設 定 方形状であるため、
基本的に10m×10mのグリッドを組
む。西側に1G～3G、中央部に4
G～6G、東側に7G、8Gとそれ
ぞれ2m×2mのグリッドとしてい
るが、5Gのみ2m×4mのグリッ
ドを設定している。

土 層 5G（北壁セクショ
ン）の土層図を作成している。

表土層をI、I'層とし、I層は
黒褐色でやわらかくふわふわした感じ
であり、I'層は同色で固くしまった
感じである。

II層に青味をもち粘質のある黒色土
がバンド状に入る。

III層に赤ホヤ層が入り、赤ホヤ層は
薄くなっている。

遺 構 3G、2G、1G、4
G、7Gと黒色土の落ち込みが見受け
られ、溝状遺構としてとらえてよいも
のであろう。

遺 物 遺構上面までで発掘を
止めているため、遺物の露出はほとん
ど見受けられない。

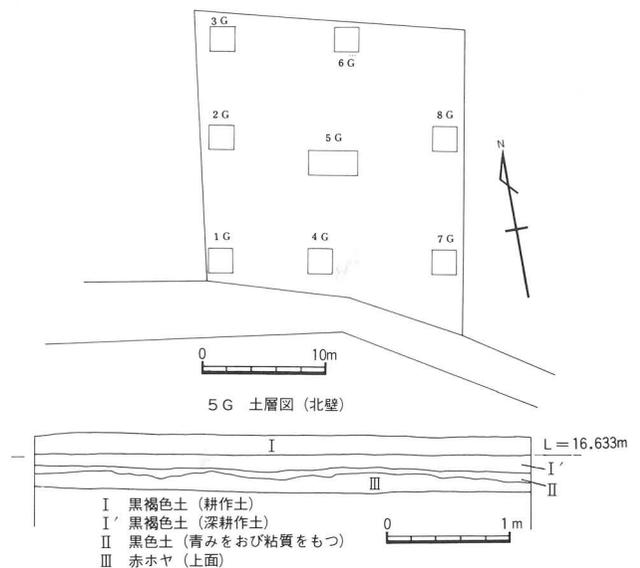
(3) 3号地-3 (7989番地外)

位 置 3号地-1の北西端
に接する南北に長い長形状の畑地
であり、西側に宮崎大学グラウンドの
テニスコートが接する。

試掘グリッド 細長い畑地であり、
設 定 10m×10mのグリッ
ドを組み、南北軸をアラビア数字、
東西軸をアルファベットで表示する
が、東西幅が狭いため2列のグリッ



図版7 3号地-2 調査区全景



第10図 3号地-2 グリッド 配置図及び土層図



図版8 3号地-3 調査区全景

ド配置となる。グリッドの交点に 2 m × 2 m の試掘グリッドを 18 箇所設定した。

土 層 表土下約 40 cm 内外で、全体的に赤ホヤ層上面をとることができた。

6 C グリッド (東壁セクション) の土層図を作成している。

I 層はやわらかくふわふわした感じの黒色耕作土である。

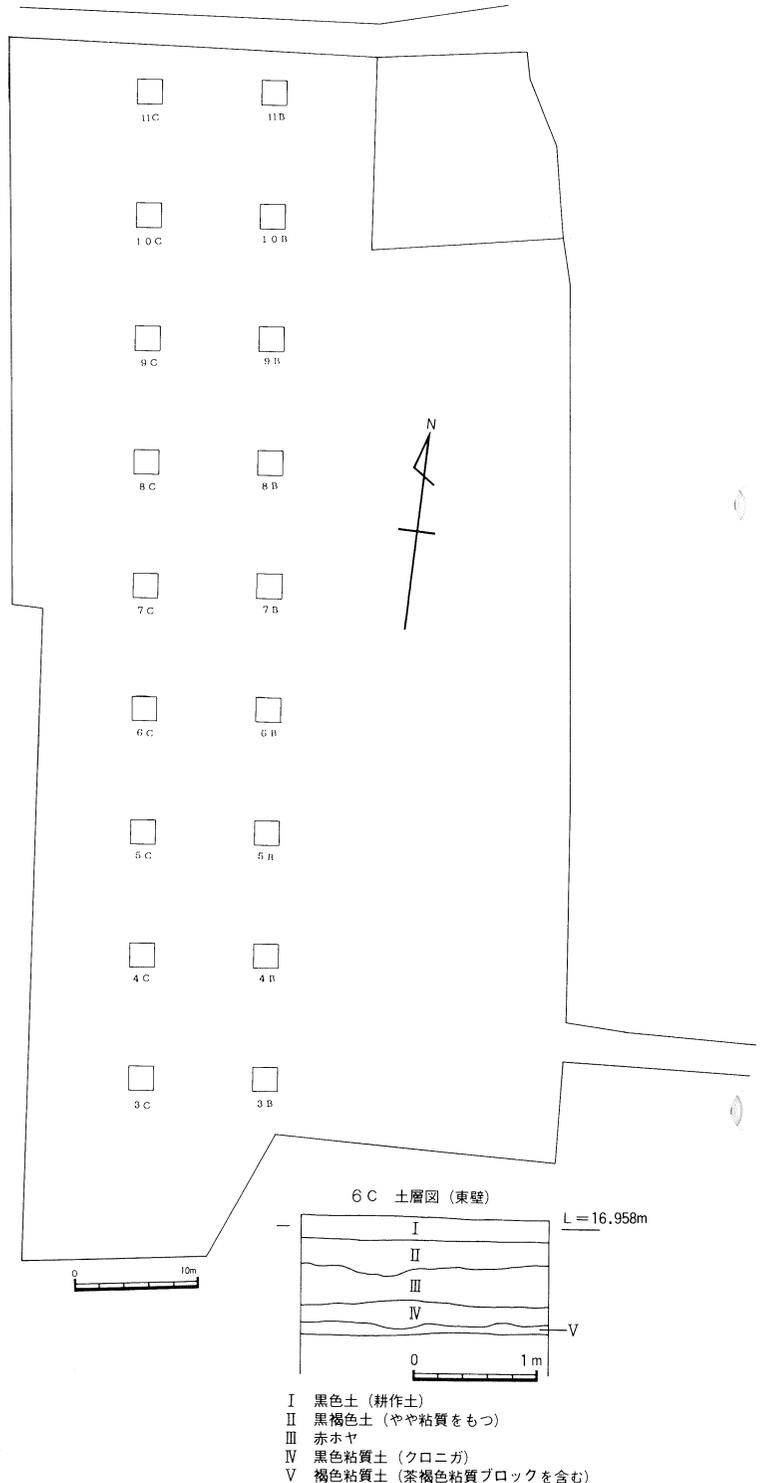
II 層はやや粘質をもった黒褐色土層となり、下層では赤ホヤ層混じりの茶褐色となる。III 層は赤ホヤ層で上層はやわらかく、II 層からの落ち込みから茶褐色を帯びる。下層は粒子が粗くなり、固く黄色味をます。

IV 層は黒色粘質土層で、固い粘質のブロックを混入する。

V 層は黒色粘質土層で、固い茶褐色粘質ブロックを含む。

遺 構 赤ホヤ層上面で黒色土の落ち込みが見受けられ、ピットや溝状遺構が確認されたほか、多少広範の落ち込みも見受けられるが、性格については不明である。赤ホヤ層以下の下部層においての遺構存在の可能性は薄いようである。

遺 物 プライマリーな状態での遺物の検出はなく、土師器片及び近世陶磁器片数点が出土している。



第11図 3号地-3 グリッド配置図及び土層図

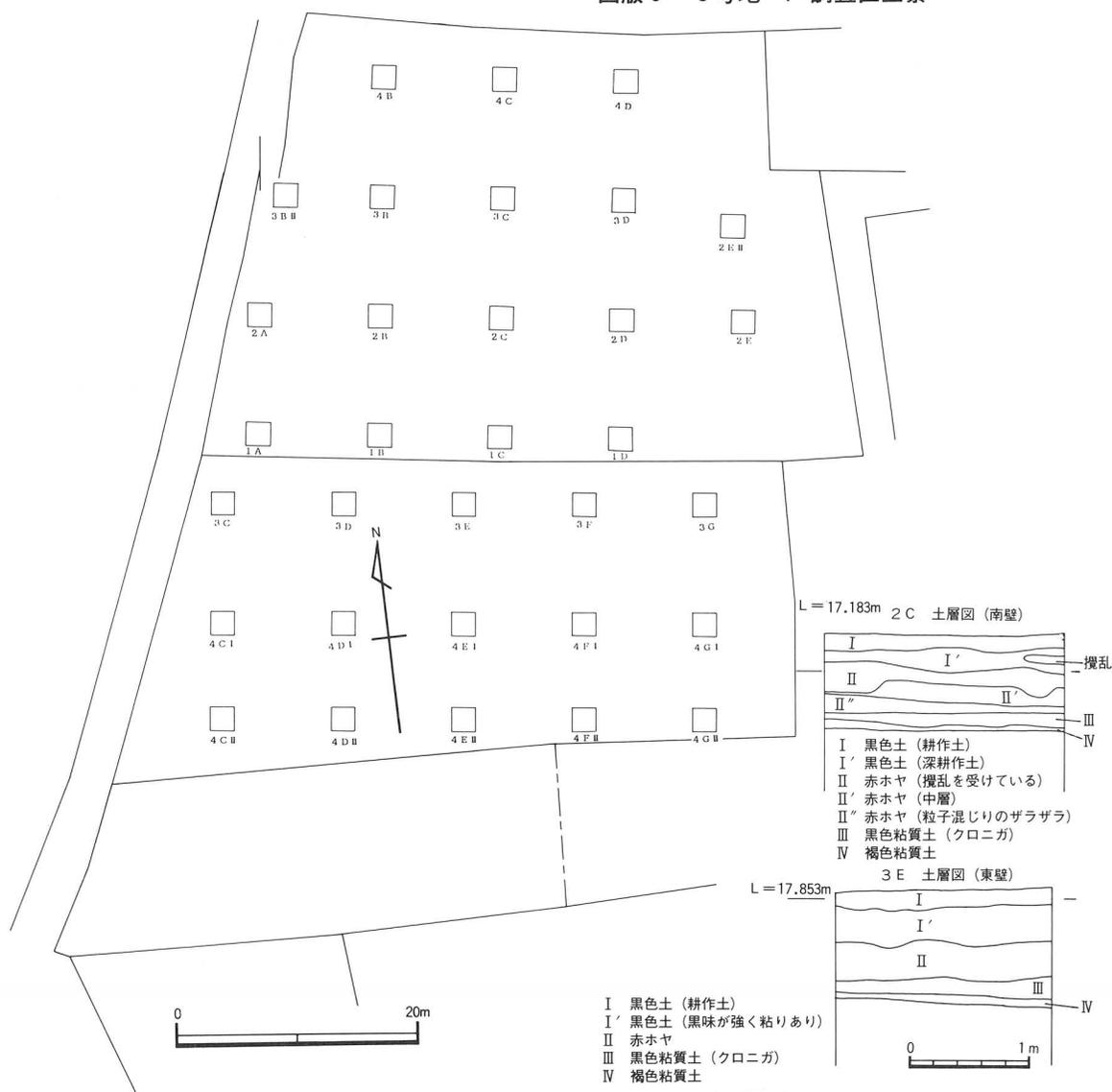
(4) 3号地-4 (8112番地1外)

位置 3号地-3の北東部に位置し、3号地の北西端にあたる西側は、宮崎大学用地に接する。西側に南北に走る農道より一段下がり、畑地は東方向にわずかに傾斜する。

試掘グリッド この調査区は作物収穫前と収穫後の関係から、畑地南半を先に調査し、作物収穫後北半を調査しているため、グリッドの配列に統一を欠いている。基本的には、



図版9 3号地-4 調査区全景



第12図 3号地-4 グリッド配置図及び土層図

10m×10mのグリッドを組み、南北軸をアラビア数字、東西軸をアルファベットで表示しているが、グリッド名は統一されていない。南半調査区が15グリッド、北半調査区は17グリッドを設定している。

土層 全体的には、表土（I層）、耕作土層下に赤ホヤ層（II層）が入るが、遺構等の存在が窺われ、層序に変化が見受けられる。

III層に黒色粘質土層（クロニガ）、IV層に褐色粘質土層が入る。

遺構 耕作土の下層より近世陶磁器片の出土が多く、近世住居が存在していたことが強く窺われる。また、赤ホヤ層上面では黒色土の落ち込み遺構が多く見受けられ、溝状遺構や住居跡等の存在が窺われた。

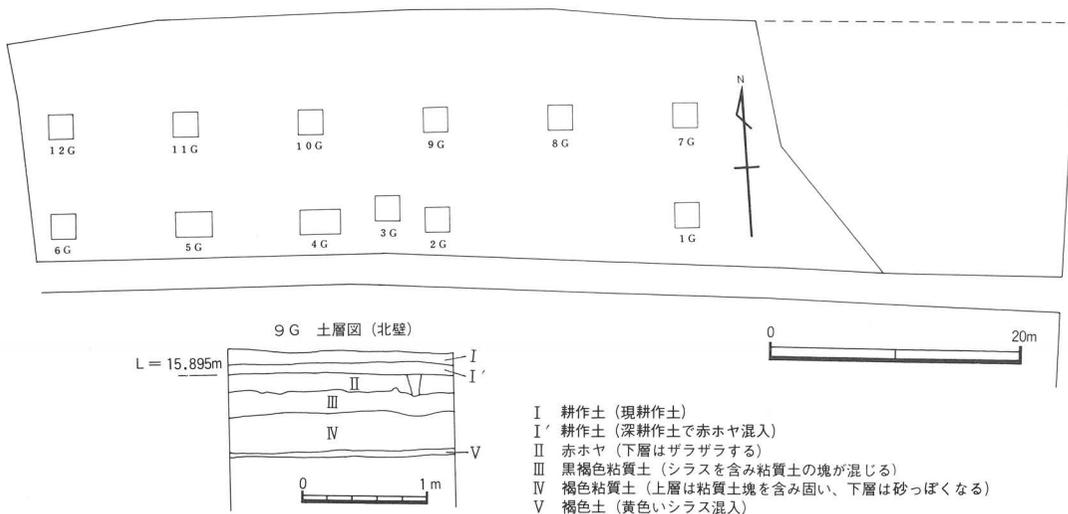
遺物 近世陶磁器やスリパチ等がかなり良好な状態で出土している。また、土師器片数点が出土している。



図版10 3号地-5 調査区全景

(5) 3号地-5 (8128番地外)

位置 3号地の中央部に位置し、調査区は東西に細長く、東は南北に延びる旧街道に接している。畑地は東方向にやや傾斜する。



第13図 3号地-5 グリッド配置図及び土層図

試掘グリッド 東西に細長い畑地であり、基本的には、10m×10mのグリッドを組み、その交点に2m×2mの試掘グリッドを設定したが、南側列を東から西へ1G～6G、北側列を同じように7G～12Gと表示した。

土 層 9G（北壁セクション）の土層図を作成している。

I層の表土、耕作土は浅く、20cm内外である。全体的に浅い位置で赤ホヤ層の上面が露出するが、調査区南西部では近年耕作土に供するために赤ホヤ土を採ったとのことで、赤ホヤ層がとばされている。

III層に黒色粘質土層（クロニガ）が入り、固い粘質土が混じる。

IV層は褐色粘質土層となり、シラスを含み、上層では粘質土の塊が入る。下層では砂っぽくなる。

V層は黄色シラスが斑状に入る褐色土層となる。

遺 構 表土、耕作土が薄く、赤ホヤ層が露出するため、遺構の存在の可能性は希薄な状況が窺われる。一部に溝状の落ち込みが見受けられるが、良好な状態ではない。

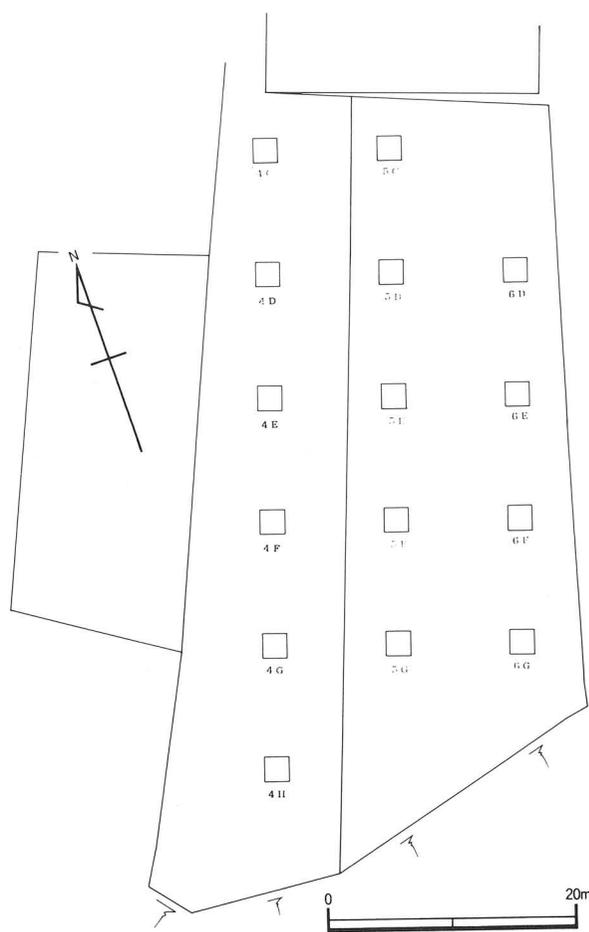
遺 物 遺物はほとんど見受けられなかった。

4号地調査区

字犬馬場に属し、北縁は加江田神社の北東角から東に入り込む道路で区切り、南縁は塩鶴・木崎線に接し、台地上から急傾斜となる。東側は事業地区界となる。宅地は、熊野神社から南に延びる旧街道の東側及び南傾斜地の麓、塩鶴・木崎線に沿って建ち並ぶ。宅地外には、広大な畑地が広がっている。



図版11 4号地-1 調査区全景



第14図 4号地-1 グリッド配置図

調査は、農作物の関係から畑地全面の調査は不可能であった。4号地調査区の西側中央部を4号地-1、加江田神社から東に入り込む道路が十字路に岐れる西側に接して、細長い長方形状の畑地を4号地-2、十字路が南及び東に延びる角地に接して4号地-3の調査区を設定している。

(1) 4号地-1 (470番地外)

位 置 加江田神社の東から入り込む道路の南側に宅地が並び、その南側に位置し、西側は一段下がった宅地となり、南側は急傾斜地となる。畑地は、全体的に南東方向にわずかに傾斜している。

試掘グリッド 南北に長い長方形状の畑地であり、10m×10mのグリッドを組み、南北軸をアルファベット、東西軸をアラビア数字で表示し、それぞれの交点に2m×2mの試掘グリッドを15箇所設定した。

土 層 調査区西側では表土下約30cm内外で赤ホヤ層が見受けられるが、東側においては赤ホヤ層が見受けられず、表土が約15cmで、Ⅱ層に約15cmの赤ホヤ及びシラス混入の茶褐色土層が見受けられる。

Ⅲ層は約19cmの茶褐色土層となる。

遺 構 西側グリッドでは、住居跡と思われる黑色土の落ち込みが見受けられ、土師器片、弥生式土器片を伴う。その他、ピットや性格不明の落ち込み遺構等が確認された。

遺 物 西側グリッドでは、黑色土の落ち込みに伴って、土師器片や弥生式土器片を検出している。また、黒曜石2点も出土している。

東側グリッドでは土師器片の出土は少なく、茶褐色土層より焼石が多く検出されている。

[第15図 ①②] [図版 26]

①は土師器甕の口縁部及び胴部である。口縁部はやや肥厚して、くの字形に外反し、ヨコナデ調整が見受けられる。胴部器厚は薄く、あまり膨らみを持たず、ヘラ調整が見受けられる。砂粒を含み、黄褐色を呈する。

②は土師器底部であり、高い上げ底となる。底部裾部にナデ調整が見受けられる。砂粒を多く含む。

(2) 4号地-2 (462番地2)

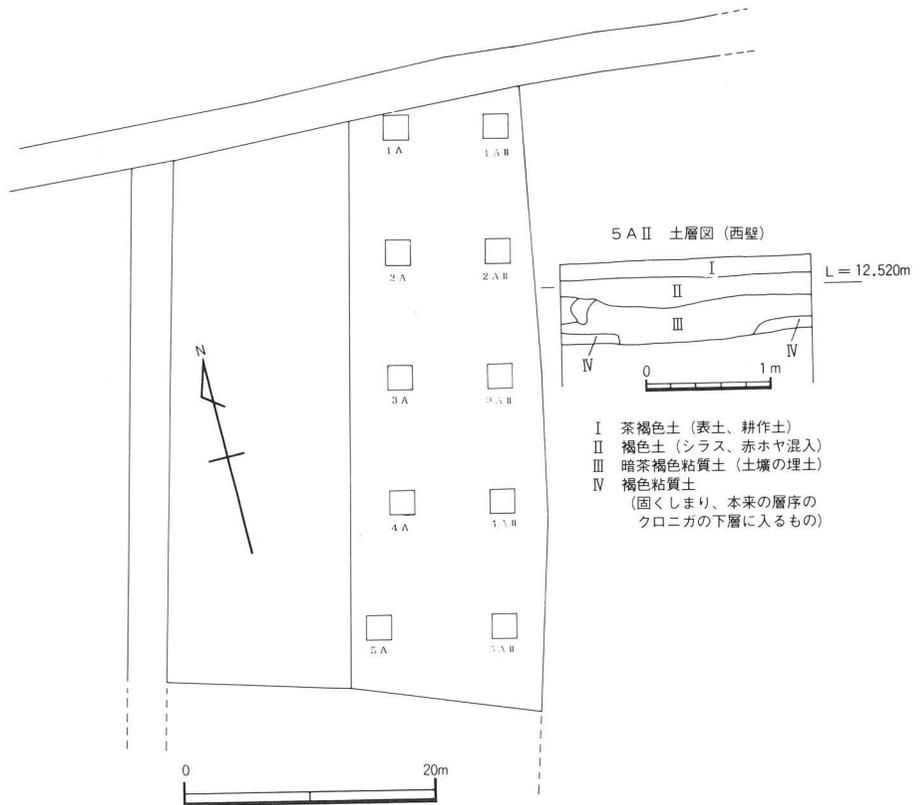
位 置 加江田神社の東から入り込む道路の中央部に接した南北に細長い畑地にあたり、平坦地である。



図版12 4号地-2 調査区全景

試掘グリッド 畑が細長いため、10m×10mのグリッドが1列組めるのみであった。そのため、
設 定 南北軸、東西軸の交点内側に2m×2mの試掘グリッドを10箇所設定し、南北軸をアラビア数字、東西軸はA及びAⅡで表示した。

土 層 I層は10cm内外の表土層（耕作土）となり、II層はシラスや赤ホヤ混入の褐色



第15図 4号地-2 グリッド配置図及び土層図

土層で、III層は暗茶褐色粘質土層となる。IV層は固くしまった褐色粘質土層となり、本来なら、クロニガと呼ばれる黒色粘質土層の下層に入る土層である。

遺 構 1A、2AⅡ、4A、4AⅡ、5A、5AⅡグリッドで土壌墓と思われる落ち込み遺構を確認している。

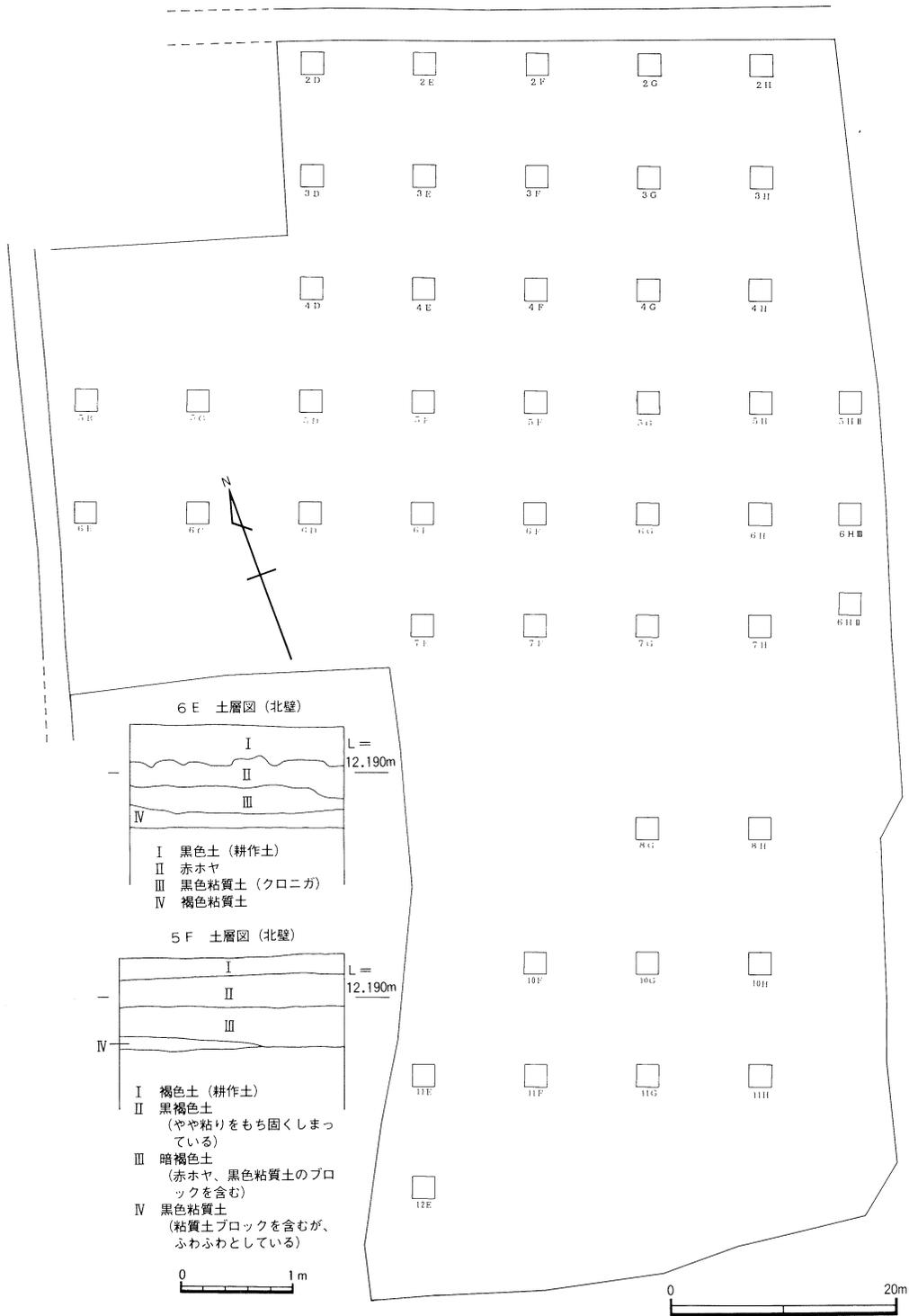
遺 物 土師器片及び青磁器片数点を出土している。



図版13 4号地-3 調査区全景

[第15図 ③] [図版 26]

③は青磁碗である。口径約12.6cmで口縁部は直に立ちあがり胴部から底部にかけて内湾する。



第16図 4号地-3 グリッド配置図及び土層図

口縁部に2本線をめぐらし、胴部に文様を染付けている。

(3) 4号地-3 (452番地外)

位置 加江田神社の東から入り込む道路が十字路に岐れて東及び南に延びる角地に接する、ほぼ平坦な畑地である。南側縁部は急傾斜地となり、東側は事業地区界にあたり、一段上がった車坂城跡に接する。北側は道路を隔てて2号地-3の調査区に接する。

試掘グリッド 広大な畑地全体を10m×10mのグリッドに組み、南北軸をアラビア数字、東西**設定** 軸をアルファベットで表示し、それぞれの交点に2m×2mの試掘グリッドを46箇所設定した。

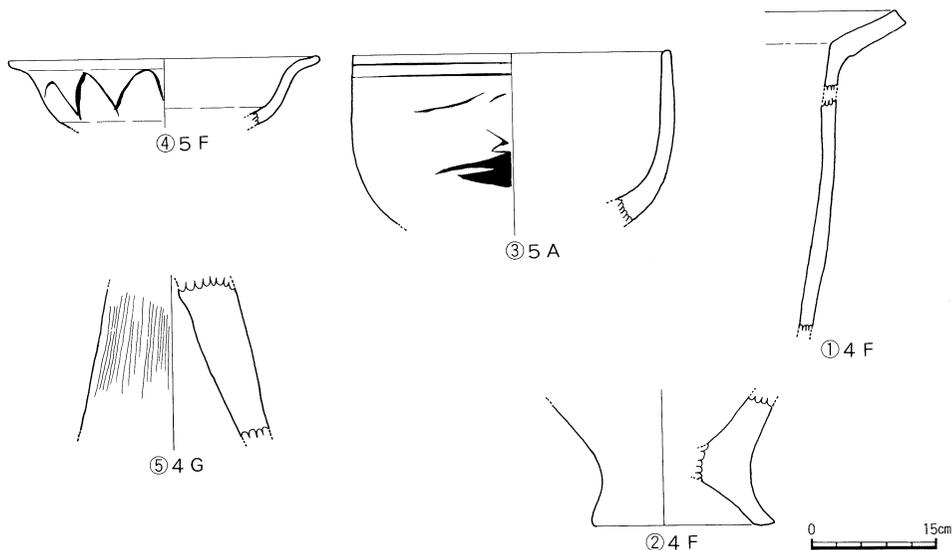
土層 基本的には、I層、表土層（耕作土）が約30cmあり、II層に約20cmの赤ホヤ層が入る。III層に黒褐色土層（クロニガ）が約30cm、IV層に褐色粘質土層が入る。しかし、掘り込みや遺構等によって、各グリッドの層序に乱れを生じている。

遺構 大半の試掘グリッドにおいて、赤ホヤ層を掘り抜く落ち込みが見受けられ、溝状遺構や住居跡と思われる落ち込み等が見受けられた。特に、4Gグリッドでは、土師器を伴う住居跡と思われる遺構も確認されている。また、車坂城跡に近接する位置から車坂城に伴うと思われる遺構等が見受けられた。

遺物 中近世の陶磁器片や青磁片が多数出土しており、その他、土師器片も少量出土している。また、下層において焼石を検出している。

[第15図 ④⑤] [図版 26]

④は青磁小鉢である。口径約12.4cmで口縁部が大きく開き、胴部は底部へと屈曲する感じをもつ。胴部に波状的文様の染付けが見受けられる。



第17図 4号地-1.2.3. 出土遺物実測図

⑤は高坏の脚部である。坏部及び脚裾部は欠損している。器面は縦にヘラ調整がなされており、内面は、ナデ調整が見受けられる。砂粒を多く含み、黄褐色を呈する。

5号地調査区

字犬馬場に属し、加江田川の北側に西に入り込む道路の南側を北界とし、東側は旧街道が内湾して塩鶴・木崎線に通じ、南側へと旧傾斜地となる。西側は、宮崎大学グラウンドのラグビー場に接し、事業地区界となる。

5号地調査区内は加江田神社境内を含み、宅地のほか、みかん園が南縁部に存在し、これらの用地は調査対象外とした。

加江田神社の北西部の畑地を5号地-1、西側に5号地-4とし、旧街道が湾曲して下がる台地端部畑地を5号地-2、西に高平アパートを挟んで西側畑地を5号地-3の調査区として設定している。

(1) 5号地-1 (344番地外)

位置 加江田神社境内の北西部に位置し、北、西、東側から落ち込む窪地の畑地にあたる。

試掘グリッド 3号地-1の調査区から道路を隔てて一段下がる畑地のため、3号地-1の南側
設定 北軸延長上にグリッドを設定した。さらに、東西軸に1G~4Gを設定し、1Gの南10mに5Gを設定した。

土層 1G(東壁セクション)の土層図を作成している。

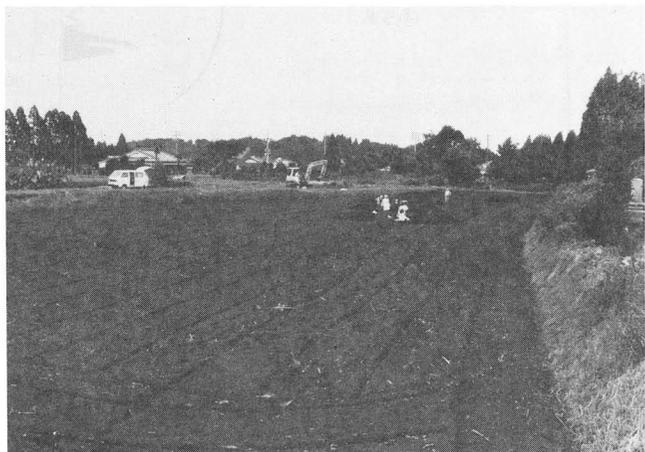
I層は表土層(耕作土)で、I層(黒褐色土層)、I'層(茶褐色土層に分け、約30cmを測る。)

II層は、茶褐色土層が約120cm程あり、細くIIa層(シラス及び若干の赤ホヤ粒子を混入)IIb層(やや黒味を帯びた茶褐色を呈し、シラス及び赤ホヤ粒子を含むが、やわらかい土層となる。)IIc層(固い砂及び赤ホヤ粒子を含み、固い感じをもつ。)に分けている。

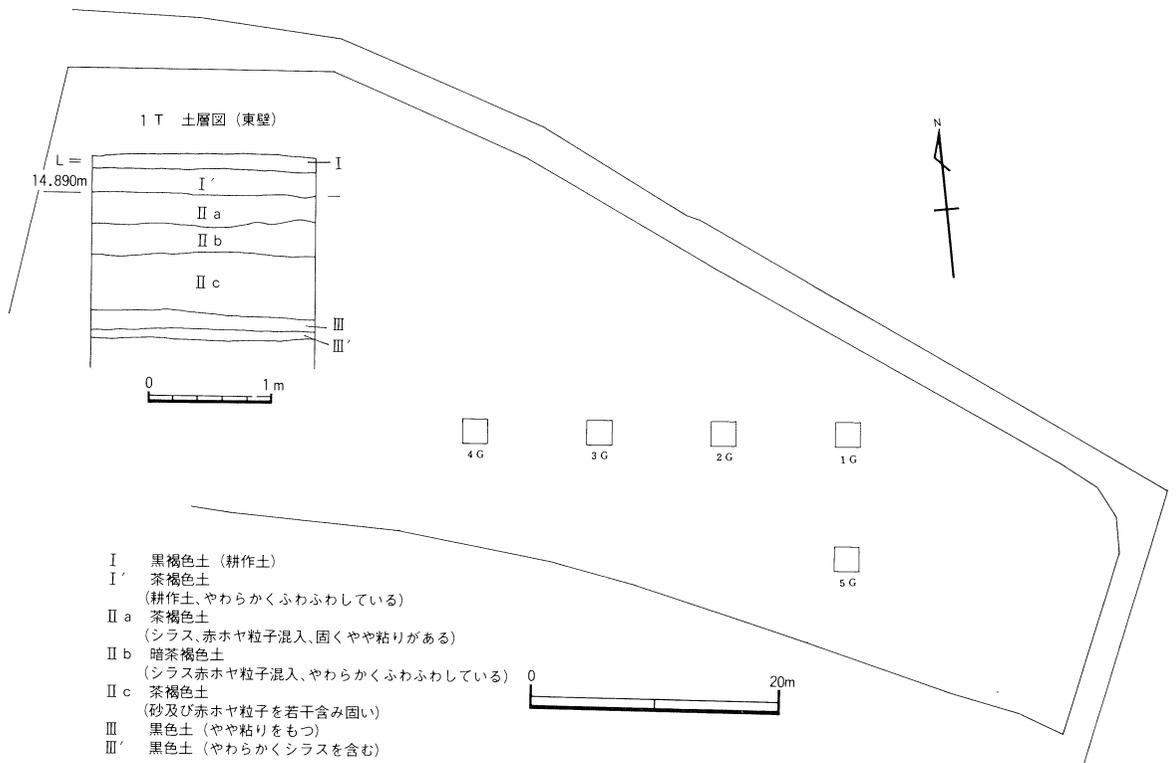
III層は、黒色土層で約20cmほどあり、やや粘質をもつ層とやわらかくシラスを含む黒色砂質土層III'層に分けている。

遺構 調査区が低地であり、また、土層が黒色及び茶褐色の堆積土層であるため遺構の存在は確認されなかった。

遺物 堆積土層でもあることから、遺物の検出は全く無かった。



図版14 5号地-1 調査区全景



第18図 5号地-1 グリッド配置図及び土層図

(2) 5号地-2 (477番地3)

位置 加江田神社の南側に接して位置し、東及び南は道路へと急傾斜地となる。畑地は南東方向にやや傾斜している。北側に住宅、西にアパートが建設されており、台地南端部に畑地が広がる。

試掘グリッド 宅地及びアパート敷地は、調査区から外し、10m×10mのグリッドを組み、**南設** 北軸をアラビア数字、東西軸をアルファベットで表示し、それぞれの交点に2m×2mの試掘グリッドを11箇所設定した。

土層 表土下25cm内外で赤ホヤ層の露出を見受けるが、赤ホヤ層の露出は、5 C、6 D及び4 Gグリッドで見受けられるが、西にあたる4 Gグリッドになると赤ホヤ層がわずかに残るのみで、大半はカットされていることが窺われる。特に、南側端部にあたる3 Dグリッドでは、ほとんど無くなっている。

全体的に遺構と思われる落ち込みが見受けられたため、下層部までの掘り込みは行わなかった。従って、土層図の作成は行っていない。

遺構 黒色の落ち込みやピット等が多く見受けられ、それらに伴って、弥生式土器片等がまとまって出土しているため、住居跡等の遺構の存在の可能性が強い。

遺物 弥生式土器が大半を占め、土師器、中世の陶磁器片も見受けられた。また、4 Fグリッドでは、焼石数点も検出されている。

[第20図 ①~⑤] [図版 27]

①は土師器甕の口縁部である。口縁部は大きく開き、頸部がしまつて肩部から胴部にかけて大きく膨らみをもつ。口縁端部は、内外面ともにヨコナデ調整で、器面はナデ調整、頸部内面はハケ目調整が見受けられる。

②は弥生式土器甕胴部である。やや内湾する感じで膨らみをもたない。器面は内外面とも木口ハケ目調整が縦方向に交差する感じで見受けられる。胎土に多くの砂粒を含み、内面は黒灰色、外面は淡黄褐色を呈する。

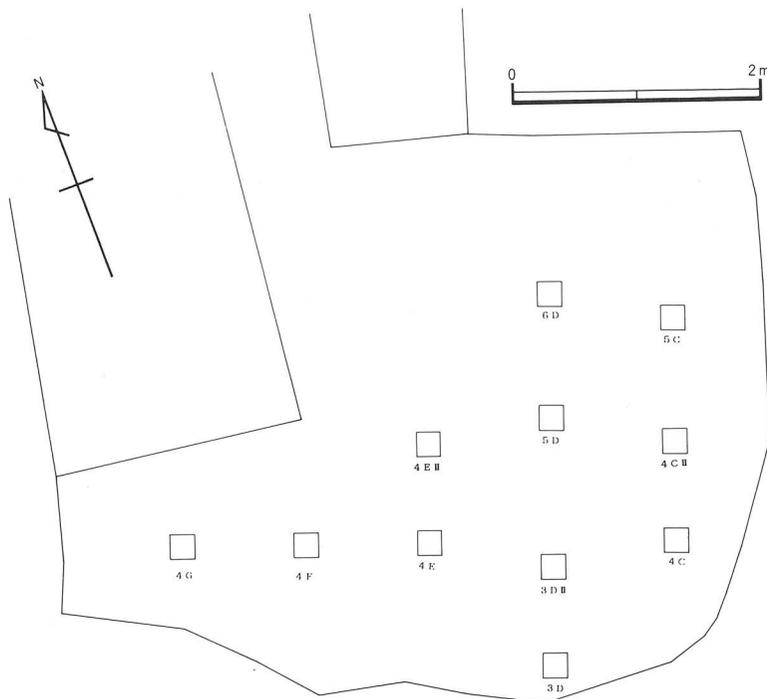
③は弥生式土器の口縁部で、3本のキザミ目突帯をもつ。口縁部はやや内傾気味に立ちあがり、端部はヨコナデ調整が見受けられる。胎土に砂粒を含む。

④は弥生式土器の肩部と思われる3本の突帯をもつ。器面はヨコナデ調整で胎土に微砂粒を含み、赤褐色を呈する。

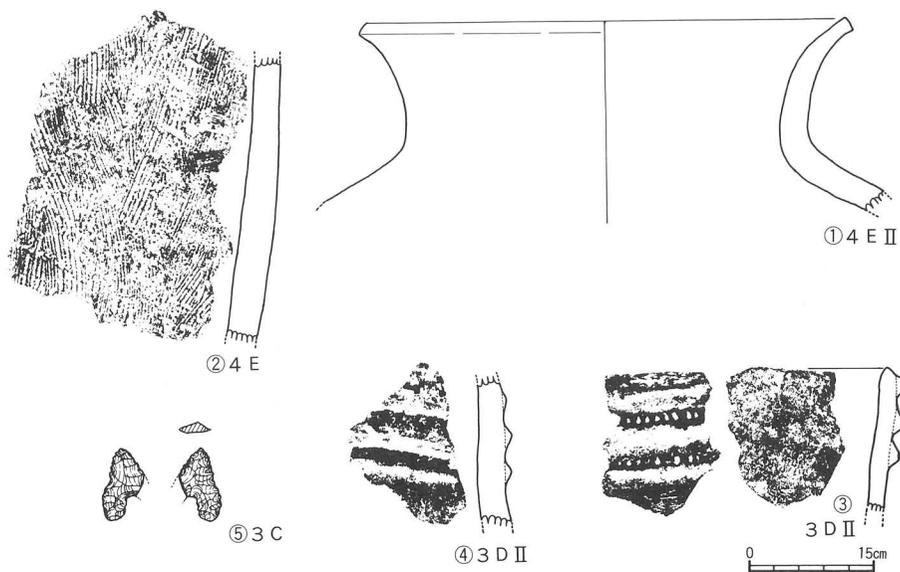
⑤は挟り込みをもつ石鏃で、片方を欠いている。石質はチャートである。



図版15 5号地-2 調査区全景



第19図 5号地-2 グリッド配置図



第20図 5号地-2 出土遺物実測図

(3) 5号地-3 (478番地1)

位置 加江田神社の南西角に接して位置し、5号地-2調査区の西、アパートを挟んだ畑地にあたる。西側及び南側縁部は一段下がった緩傾斜地のみかん園が接する。

試掘グリッド 東西に長い長形状の畑地である。10m×10mのグリッドを組み、南北軸をア
設定 ラビア数字、東西軸をアルファベットで表示し、それぞれの交点に2m×2mの試掘グリッドを21箇所設定した。

土層 調査区北側では、表土下40cm内外で赤ホヤ層が露出するが、南側では、赤ホヤ層はほとんど見受けられず、茶褐色粘質土層が露出する。

6C (西壁セクション) の土層図を作成している。

I層に表土層(耕作土)が約30cmあり、II層に赤ホヤ層が約20cm残る。III層に黒褐色土層(ニガ土)が約10cm入り、IV層に褐色粘質土層が入る。

遺構 赤ホヤ層が残る調査区北半には、黒色土の落ち込みが見受けられ、住居跡の存在が想定される。また、南半においても黒色土の落ち込みが一部見受けられる。

遺物 北側6Dグリッドからは線刻文土器が出土しており、中央部にあたる5列のグリッドからは、土師器、土錘、弥生式土器、縄文式



図版16 5号地-3 調査区全景

土器、黒曜石、焼石等が出土している。また、4列のグリッドからも、5列のグリッドと同様に遺物が出土している。

[第22図 ①～⑦] [図版 28]

①～④は縄文式土器である。

①は口縁部が肥厚し、やや直に立ちあがる。外面は風化しているものの、楕円押形文が施文され、胎土に砂粒を含み黄褐色を呈する。

②は口縁部がやや外反し、外面にやや傾行回転の山形押形文が施文され、胎土に微砂粒を含み、黄褐色を呈する。

③は口縁部を欠くが、頸部から口縁部へはやや内傾する感じもたれる。外面に短線及び屈曲する沈線文が施文され、胎土に微砂粒を含み黄褐色を呈する。

④は胴部と思われ、外面に4～5本の短線列による沈線文を不規則に施文され、胎土に微砂粒を含み黒褐色を呈する。

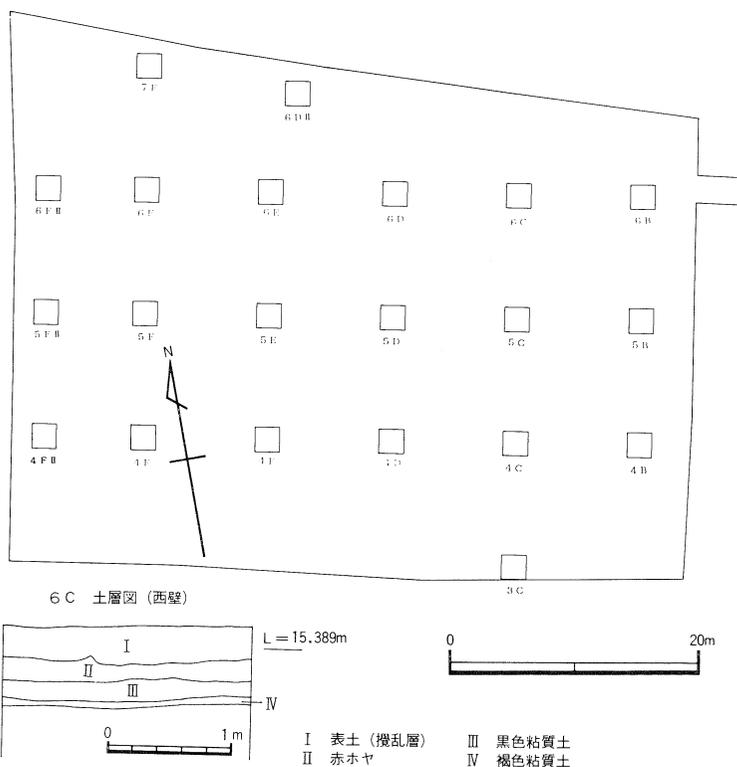
⑤・⑥は弥生式土器である。

⑤は口縁部下にキザミ目突帯をもつ甕であり、口縁部は、やや外傾気味に立ちあがる。口縁端部はヨコナデ調整、内外面にハケ目調整が見受けられる。胎土に微砂粒を含み黄褐色を呈する。

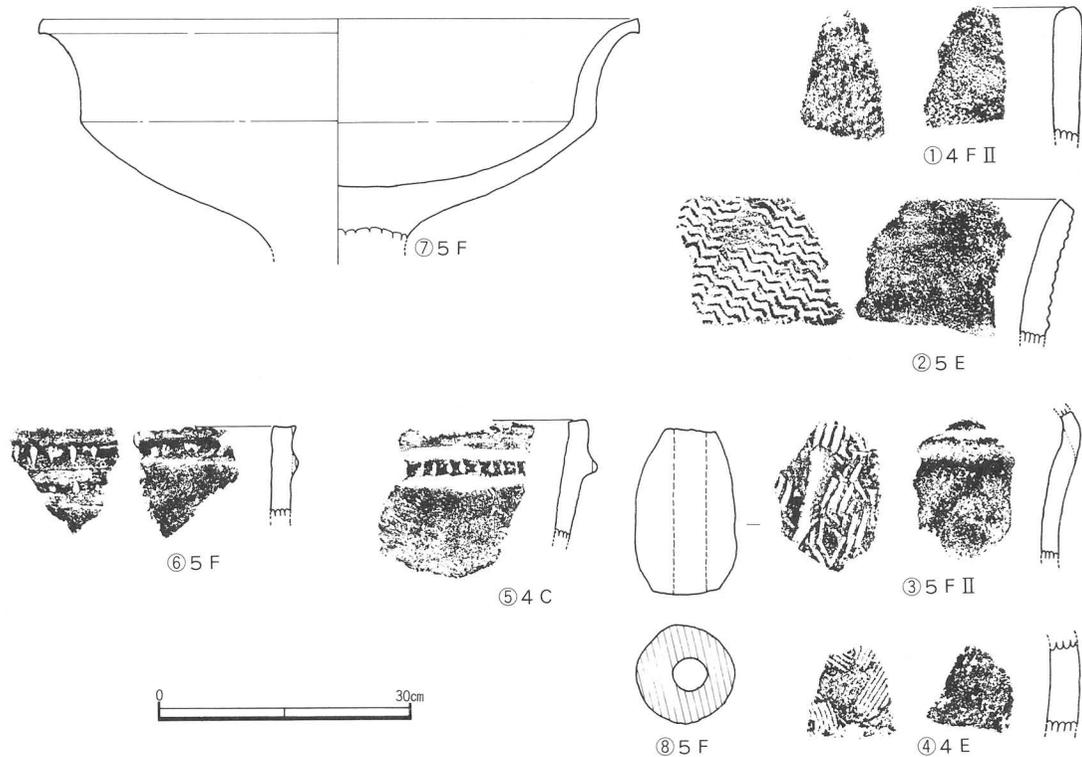
⑥は口唇部にキザミ目、口縁部下にキザミ目突帯をもち、やや外傾気味に立ちあがる甕の口縁部である。口縁部下にハケ目調整が見受けられ、胎土に微砂粒を含み黒灰色を呈する。

⑦は土師器の高坏で脚部を欠く。口縁部から外湾し、坏胴部で湾曲し、底部へゆるやかに膨らみをもつ。口唇部はヨコナデ調整、内外面ともにヘラ磨きが見受けられ、胎土に砂粒を含み、内面は黒色、外面は黄褐色を呈する。

⑧は土師質の土錘で、最大長6.6cm、最大径4cm、穿口径1.4cmの大型のものである。



第21図 5号地-3 グリッド配置図及び土層図



第22図 5号地-3 出土遺物実測図

(4) 5号地-4 (396番地外)

位置 加江田神社の裏、西側に位置し、5号地-3調査区の北西にあたる。南側はみかん園となり、西側は宮崎大学のラグビー場に接する。

試掘トレンチ 南北に細長い畑地で、グリッドを組むことが困難なため、任意に南北方向に幅
設定 2m、長さ22mの1T、さらに東に5m離れて、幅2m、長さ22mの2Tを設定して、トレンチ全面を調査している。

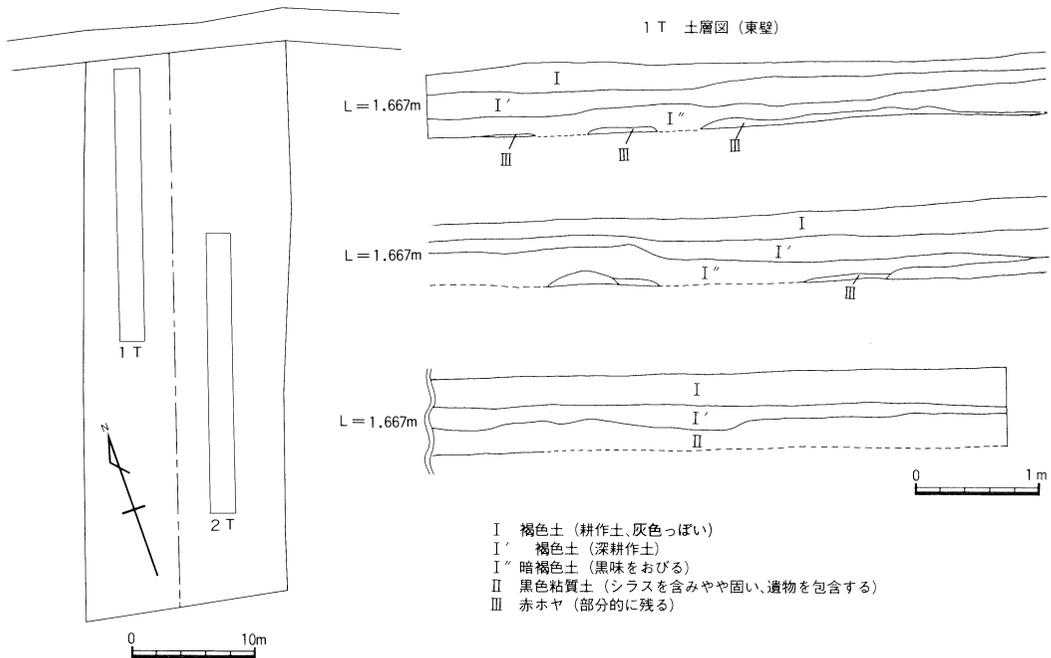
土層 表土層(耕作土)下40cm内外で赤ホヤ層の上面が露出するが、大半は、溝状遺構や黒色土の落ち込みが見受けられ、遺構等の存在が窺われたため、表土下60cm内外の深さで発掘を終えている。

遺構 1T、2Tともに溝状遺構及び住居跡と思われる黒色土の落ち込みが見受けられた。

遺物 黒色土の落ち込みに伴って、土師器片が出土している。



図版17 5号地-4 調査区全景



第23図 5号地-4 トレンチ配置図及び土層図

〔第24図 ①～④〕〔図版 29〕

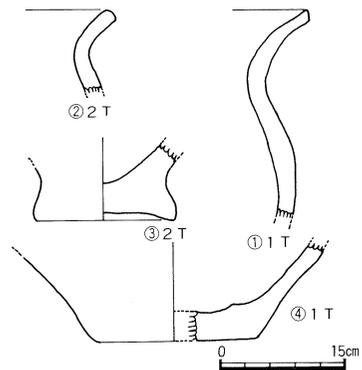
①～④ともに弥生時代終末期に相当する甕形土器とも思えるが、胎土、焼成等から土師器の範疇にいてよいものであろうと思われる。

①は口縁部が外反し、頸部はしまつて、胴部に膨らみをもつ。頸部及び胴部はやや肥厚するが、口唇部は薄くなる。口唇部はヨコナデ調整、内面はナデ調整、外面はヨコハケ調整が見受けられる。胎土に砂粒を含み、灰褐色を呈する。

②は口縁部が外反し、頸部はしまる。口唇部はヨコナデ調整で、外面はナデ調整が見受けられ、表面に煤が付着している。胎土に砂粒を含み黄褐色を呈する。

③は甕底部であり、やや上げ底となる。胎土に砂粒を含み灰黒褐色を呈する。

④は甕底部と思われ、平底をなす。胎土に砂粒を含み灰褐色を呈する。



第24図 5号地-4 出土遺物実測図

6号地-1 調査区 (508番地1外)

位 置 字山下に属し、山下事業区の東部に位置する。塩鶴・木崎線から北西方向に入り込む小谷に突き出した、南傾斜の舌状丘陵の先端にあたる。

丘陵の北側は、急傾斜の小谷となり、宮崎大学用地と隔てている。南側は、緩傾斜地となり、

塩鶴・木崎線に接する麓に住宅地がある。

丘陵頂部は南側傾斜地で全域みかん園となり、中腹以下は旧地形を段状に削平し畑地となる。したがって、遺跡の立地は希薄と思われた。また、農作物の収穫の関係から調査は不可能であった。したがって、頂部の傾斜地みかん園のスペースを見て発掘調査することとなった。



図版18 6号地-1 調査区全景

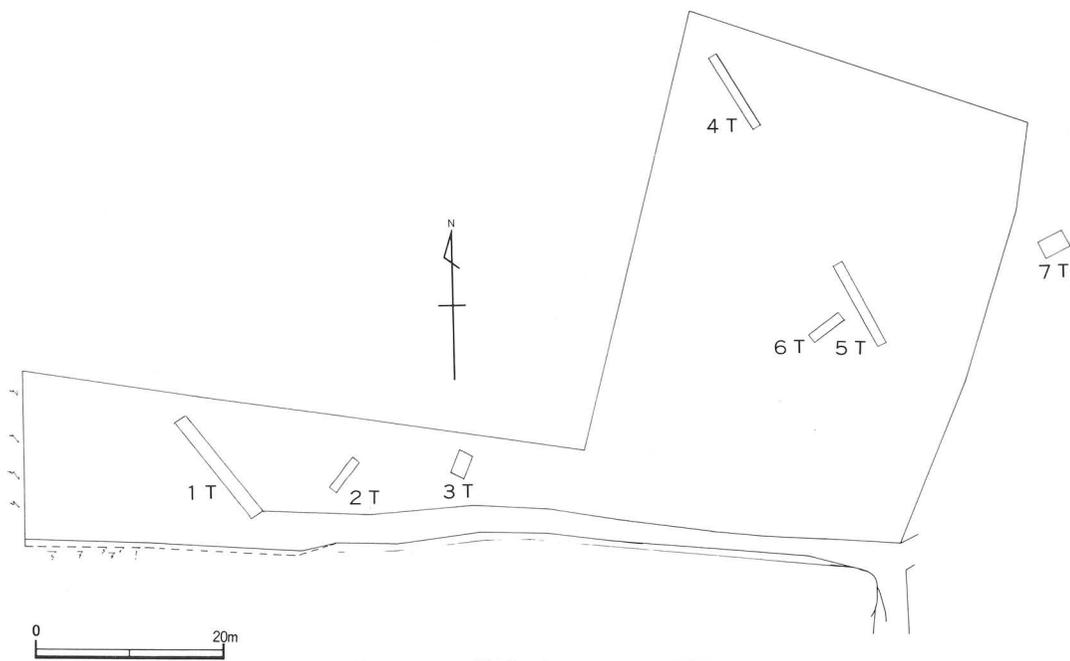
試掘トレンチ 設定 全域みかん園のため、グリッドを組むこと

は不可能であったため、みかん植栽の間隔の大きいスペースを選んで、任意のトレンチを設定することとなった。調査区西端部、北側は事業地区界、西及び南側は急傾斜で落ちる。

細長い土地に任意に西から1 T (幅1.5 m、長さ13 m)、2 T (幅1 m、長さ4 m)、3 T (幅2 m、長さ4 m) を設定している。

さらに、北西部に広がるみかん園の頂部、北西角に4 T (幅1 m、長さ10 m)、4 Tの南側延長上約17 m離れて、5 T (幅1 m、長さ10 m)、5 Tの西に対角する形で6 T (幅1 m、長さ4 m) 及び5 Tの東北方向に約20 m離れて、7 T (幅2 m、長さ4 m) を設定している。

土 層 1 Tでは赤ホヤ層はとばされており、表土の褐色土層下約18 cm内外で黄褐色土



第25図 6号地-1 トレンチ配置図

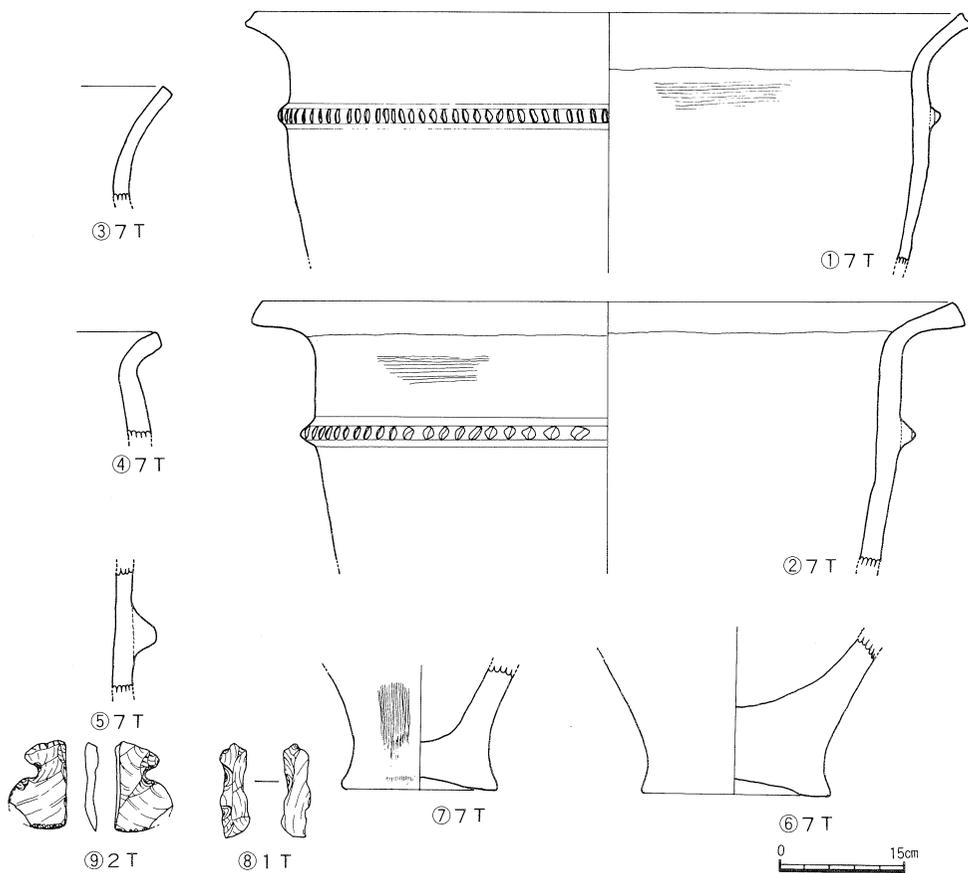
層となり、南傾斜となっている。3 Tでは一部赤ホヤ層の残存が見受けられる。他は黒色の落ち込みとなる。4 Tでは深さ30cmで赤ホヤ層が露出する。5 T、6 Tでは15cm～30cmで赤ホヤ層が露出する。7 Tでは表土下14cm～20cmで遺物が出土するため、発掘を終えている。

遺 構 1 Tではトレンチ南端部に黒色土の落ち込みが見受けられる。2 T、3 Tでは溝状の黒色土の落ち込み、4 T、5 Tでは赤ホヤ層が全面に露出し、黒色土の落ち込みは見受けられなかった。7 Tでは全面に弥生式土器の露出が見られ、住居跡の存在を窺わせた。

遺 物 1 Tでは礫の集石が見受けられ、2 Tでは石匙及び剥片石器が出土するとともに集石遺構と思われるものが検出されている。3 Tでは土師器片等数点が出土する。4 Tでは弥生式土器片が出土しており、一部ではまとまったものが見受けられる。5 T、6 Tでは遺物の出土はなかった。7 Tでは全面に弥生式土器が出土している。

[第26図 ①～⑨] [図版 30]

①は甕形土器で、口縁部が外反し、口唇部にわずかな窪みをもつ。頸部から胴部にかけて、やや膨らみをもちながら底部にいたる。胴部上部に1本のキザミ目突帯をもつ。口縁部上部は、内外面ともにヨコナデ調整、内面頸部にハケ目調整、下部はヘラナデ調整、外面はハケ目調整



第26図 6号地-1 出土遺物実測図

が見受けられる。胎土に砂粒を多く含み、黄褐色を呈する。

②は甕形土器で、口縁部が大きく外反し、頸部がわずかに薄く、口唇部で肥厚する。胴上部に1本のキザミ目突帯をもち、胴部の膨らみは少ない。口唇部は内外面ともにヨコナデ調整で、器面も全体的にヨコナデ調整が見受けられる。胎土に多くの砂粒を含み、焼成は悪く、赤褐色を呈する。

③は長頸広口壺の口縁部と思われ、わずかに外反気味で開く。ヨコナデ調整が見受けられる。胎土に砂粒を含み、黄褐色を呈する。

④は短頸の広口壺口縁と思われ、口縁部は短く外反する。ヨコナデ調整が見受けられる。胎土に砂粒を含み、灰黄褐色を呈する。

⑤は甕胴部と思われ、山形の突帯をもつ。器面はヨコナデ調整が見受けられる。胎土に雲母を含み、赤褐色を呈する。

⑥は甕底部で大型のものである。底部は上げ底をなす。器面にナデ調整が見受けられる。胎土に多くの砂粒を含み、黄褐色を呈する。

⑦は甕底部で上げ底をなす。外面に木口ハケ調整が見受けられる。また、内面は黒色となる。胎土に砂粒を含み、赤褐色を呈する。

⑧は石質チャートの縦長の剝片であり、断面に稜をもつ薄い三角形状をなす。使用痕は見受けられない。

⑨は石質チャートの石匙である。つまみ上部に打面をもち、刃部の一部を欠いている。つまみ部の挟り込みも明瞭につけられており、刃部は表面より小剥離が加えられている。

7号地—1調査区(522番地外)

位 置 字山下に属し、山下事業区のほぼ中央部に位置し、塩鶴・木崎線の北側、南傾斜地に山下地区の集落を形成しており、集落東側の畑地にあたる。

調査区は、南及び東傾斜地に開かれた畑地であり、東側は塩鶴・木崎線から北側に入り込む小谷の傾斜地となる。北側は、丘陵斜面を大きく掘削して畑地造成がなされているため、遺跡の残存は希薄と思われ、宅地とともに調査対象外とした。塩鶴・木崎線から集落に通じる上り坂の中腹東側に接する長形状の畑地とそれに接して一段下がるやや南東傾斜地の発掘調査を行った。

試掘グリッド 設 定 上段の畑地は作物の関係から、南半が調査可能なため、とりあえず、東西方向に5mの間隔をもって、2m×2mの試掘グリッド5箇所を設定し、下段の畑地は2m×2mのグリッドを組み、基本的には、交点に2m×2mの試掘グリッドを設定したが、北側は作物の関係から、間隔を狭めている。試掘グリッドは10箇所設定している。

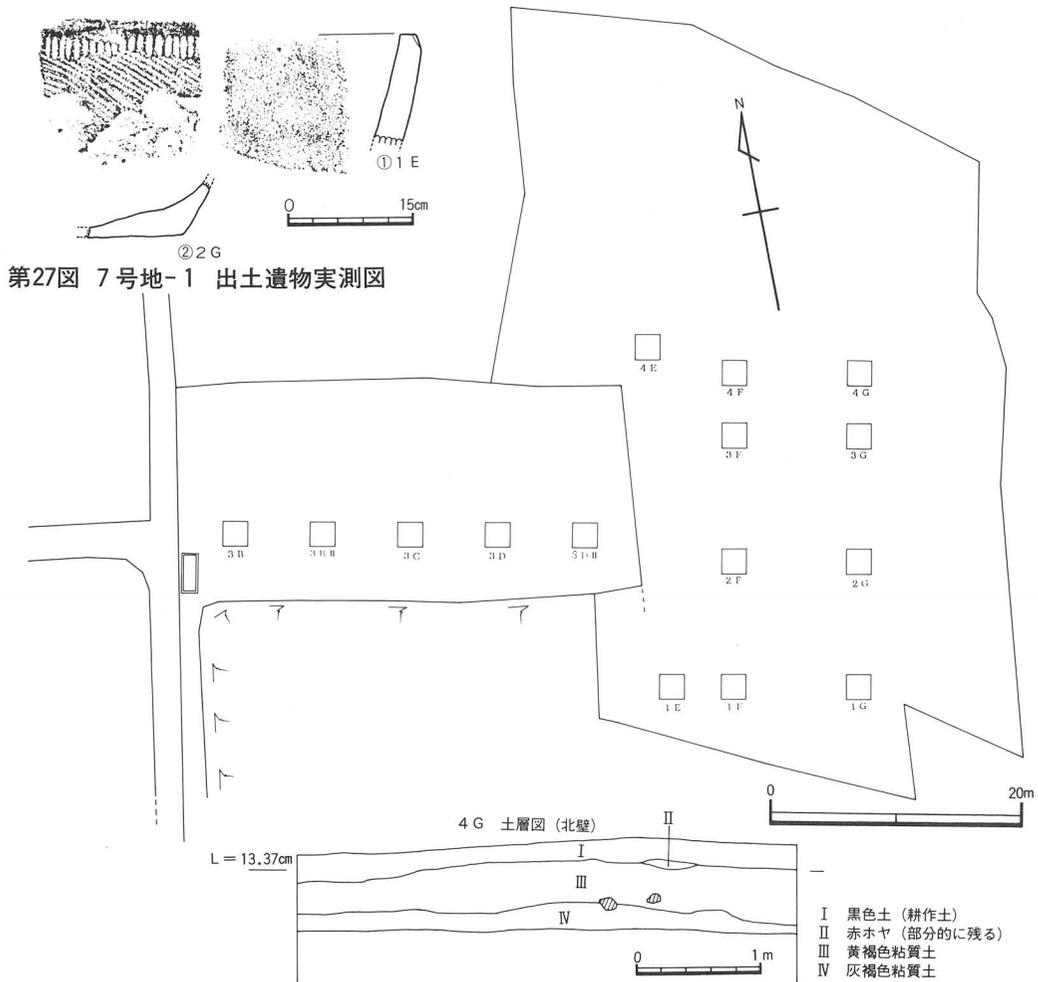
土 層 上段の畑地では、10cm~20cmで赤ホヤ層が露出する。下段の畑地では赤ホヤ層はほとんどとばされており、残っても2cm~3cmの薄い層となる。表土下約40cmで黄褐色粘質土層が露出する。

遺構 上段の畑地では、中央部の3Cグリッドで一部黒色土の落ち込みを見受けるのみである。下段の畑地では、住居跡と思われる黒色土の落ち込みと溝状遺構及びピットが確認されている。

遺物 上段の畑地では弥生式土器、土師器片数点が出土し、下段の畑地では弥生式土器、縄文式土器片を数点出土している。



図版19 7号地-1 調査区全景 第27図



第27図 7号地-1 出土遺物実測図

第28図 7号地-1 グリッド配置図及び土層図

[第27図 ①②] [図版 31]

①は縄文式土器でやや外開きに立ちあがる。口唇部外面がやや内傾し、その部位に縦列の短沈線が刻文され、下部には、斜位の木口ハケ目状の沈線が施されている。胎土に微砂粒を含み、黄褐色を呈する。

②は土師器坏底部でヘラ切り離しである。胎土は細かく、淡黄褐色を呈する。

8号地-1 調査区 (532番地外)

位 置 字山下に属し、山下事業区南西部に位置し、傾斜地中腹に開かれた山下地区集落南西部の南緩傾斜地の畑地にあたる。塩鶴・木崎線から北へ集落を通じ、宮崎大学用地となる平畑地区に通じる、東西2本の登り坂に挟まれた、丘陵中腹に宅地、畑地、みかん園が広がる。

宅地及びみかん園は調査対象外とし、畑地（以前はみかん園）のみを調査対象とした。

試掘グリッド 設 定 L字状に広がる畑地である。東西を基軸とした10m×10mのグリッドを組み、南北軸をアラビア数字、東西軸をアルファベットで表示し、それぞれの交点に2m×2mの試掘グリッドを20箇所設定した。また、北側に区切られた畑地があるため、任意に10m間隔の試掘グリッド3箇所、さらに、



図版20 8号地-1 調査区全景

南側に一段下がった細長い畑地に任意に10m間隔の試掘グリッド2箇所を設定している。

土 層 全体的に赤ホヤ層はとばされており、表土下には、直接黄褐色粘質土層が入る。その下層は褐色粘質土層となる。

南側では黒色土の堆積が厚く、西側部の3G、3Hグリッドで深さ50cm~70cmで礫層となる。

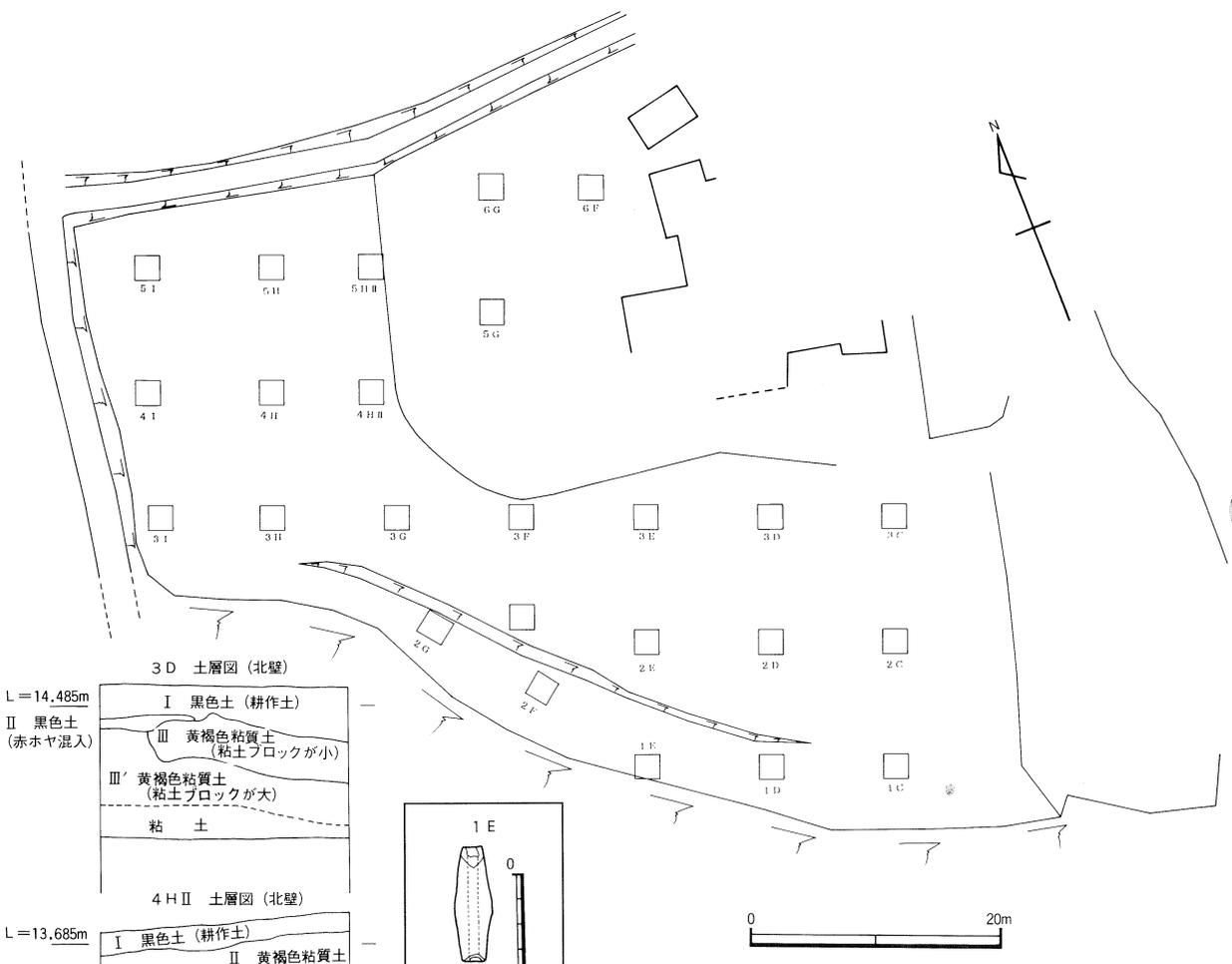
この調査区では土層の層序に統一性がなく、畑地造成によるものと思われる。

遺 構 遺構と思われるものは確認されなかった。

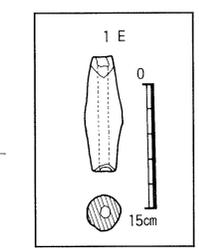
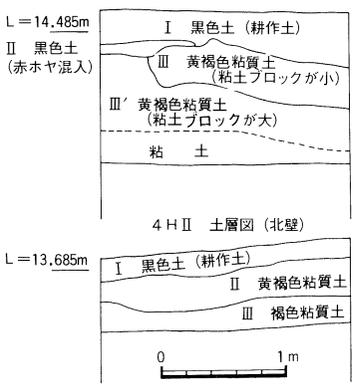
遺 物 一段下がった細長い畑地の1Eグリッドから土師器片及び土錘1点の出土があったのみである。

[第30図 ①] [図版 32]

小型の土錘で最大長4.6cm、最大径1.5cm、穿口径は0.4cmで、黄赤褐色を呈する。



第29図 8号地-1 グリッド配置図及び土層図



第30図 8号地-1 出土遺物実測図

9号地調査区

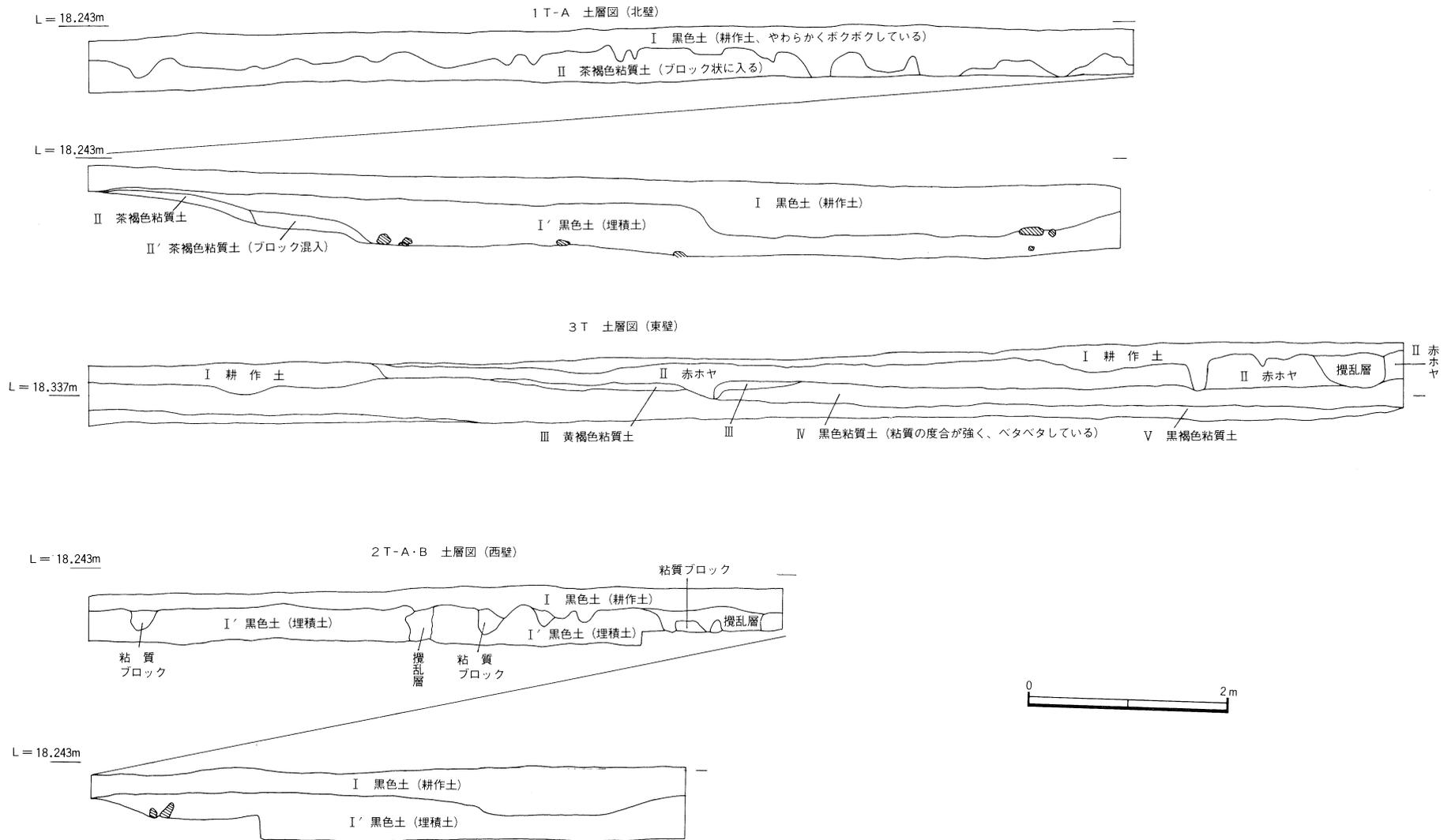
字山下及び一部が字平畑に属し、塩鶴・木崎線から平畑に通じる東西2本の登り坂に挟まれ、南側では8号地の北側に東西に通じる道路と北側において宮崎大学用地に接する、事業区界に囲まれた位置にあたる。調査区中央部は宅地で分断され、南側及び北側にみかん園及び畑地が広がっている。

宅地及び農作物の作付けのある土地については、調査対象外とした。

調査区南東部を9号地-1、南西部を9号地-2、北側を9号地-3の調査区を設定している。

(1) 9号地-1 (527番地6)

位置 塩鶴・木崎線から北に上りつめたところが十字路となり、さらに、北に延びて宅地の入口となる道路を挟んで東西に位置し、西側は方形状、東側は長方形の畑地である。



第31図 9号地-1 土層図

北及び東側に宅地が接し、南は十字路となる道路に傾斜する。

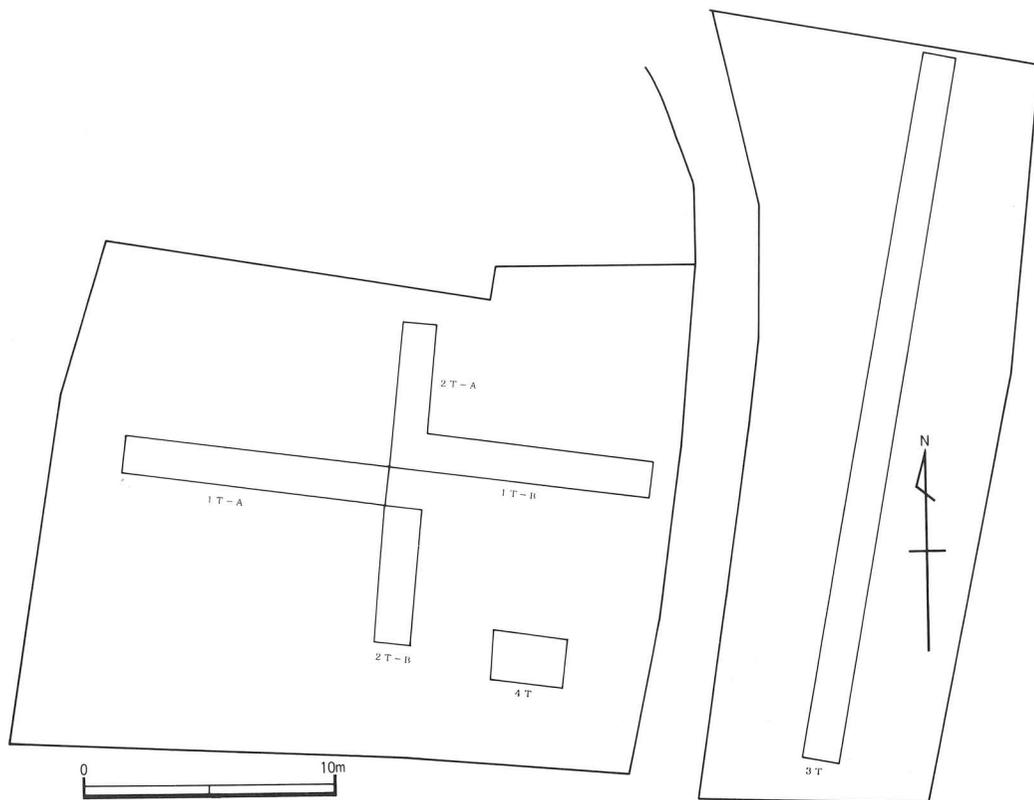
試掘トレンチ 西側の畑地で畑地中
設 定 央部に基点をおき、東西方向、南北方向に交差するトレンチを組み、幅1.5mで東に10.5mの1T-A、西に10.5mの1T-B、北に6mの2T-A、南に7mの2T-B、さらに2T-Bの南東に離れて4T、また、道路を隔てて東側畑地に1.5m×28mの3Tを設定している。



図版21 9号地-1 調査区全景

土 層 西側畑地では、約30cmの表土（耕作土）があり、下層に茶褐色の粘質土層が入り、上層の赤ホヤ層は完全にとばされている。また、黄褐色粘質土層を掘り込む形で黒色土の埋土が見受けられ、これは遺構に伴うものであり、さらに、下層では茶褐色土層に変化する。

東側の畑地では、中央部において薄い表土（耕作土）下に赤ホヤ層が残るが、南及び北側においては赤ホヤ層はとばされ、黒褐色粘質土層が上層に、黄褐色粘質土層が下層に入る。



第32図 9号地-1 トレンチ配置図

遺構 西側畑地の1 T-B、2 T-Bにおいて、黄褐色土層まで掘り込む。落ち込みがあり、床面に配石をもつ遺構が確認されている。さらに、4 Tでも東半部に黒色土の落ち込みが見受けられた。また、東側の畑地の3 Tでは、遺構と思われるものは確認されなかった。

遺物 1 T-B、2 T-Bの配石遺構に伴って、土師器数点が出土しており、埋土中から青磁器片等の出土があった。3 Tでは出土遺物はなかった。

[第33図 ①~⑥] [図版 33]

①は染付け白磁の碗である。口径約11.3cm、高さ（高台を含む）4.7cmで、胴部から口縁部は内湾気味に立ちあがる。高台はやや裾開きとなる。高台部に2本、碗底部に1本の線をめぐらしている。胴部に濃淡のある染付けが見受けられる。

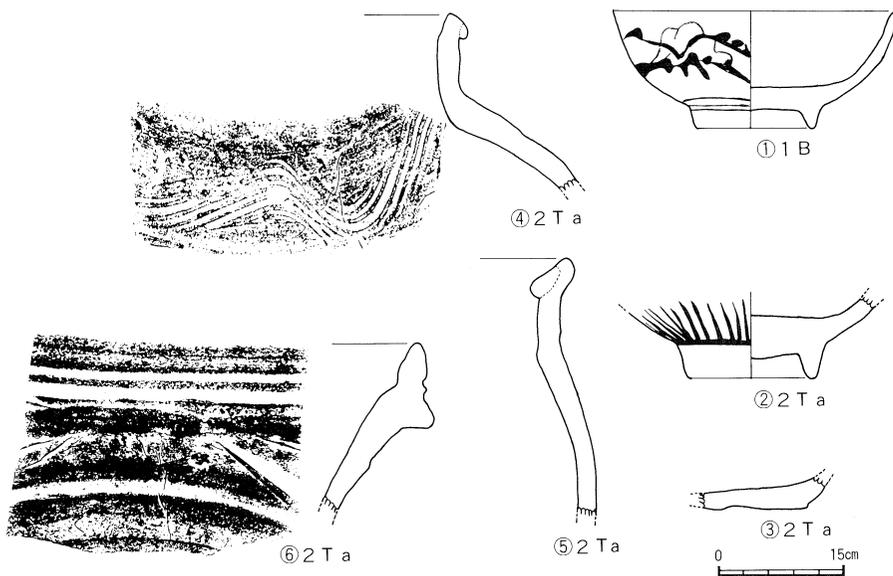
②は青磁碗の底部で、胴部口縁部を欠いている。高台は高く厚い。底部から胴部にかけて、放射状の線文が施されている。

③は土師器坏底部で、ヘラ切り離しである。

④は近世陶器の備前壺に類似する感じのものであり、口縁部はほぼ直に立ち上がり、口唇部外側に貼付状の反りが見受けられる。肩部に櫛目文（波状文）をめぐらしている。

⑤は近世陶器の甕で、常滑窯に類似する感じのものであり、口縁部はT字形の貼付を作り出している。頸部は直に立ち上がり、肩部から胴部へと膨らみをもつ。肩部下に浅い沈線をめぐらしている。

⑥は近世陶器の壺で、口縁部外側に山形の突帯をもち、内面にも浅い突帯状の段をもつ。口唇部から突帯状の間の外面に2本の沈線がめぐらされ、頸部はゆるやかな波状をなす。赤褐色を呈する。



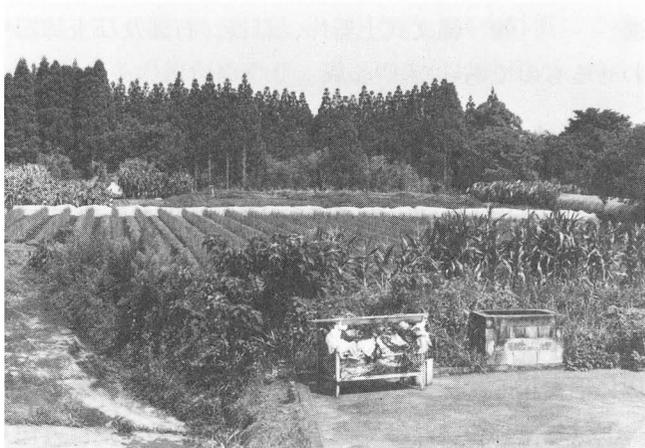
第33図 9号地-1 出土遺物実測図

(2) 9号地-2 (254番地外)

位置 9号地調査区の北側に位置し、丘陵南縁頂部にあたる。南側は急傾斜地となり、北側は事業区界となり、学園都市遺跡群の平畑遺跡に近接する。

試掘グリッド 丘陵南縁に開かれた
設定 南東方向にやや傾斜する畑地であり、作物の関係から全面の試掘調査はできなかった。10m×10mのグリッドを組み、南北軸をアラビア数字、東西軸をアルファベットで表示し、それぞれの交点に2m×2mの試掘グリッド22箇所を設定した。

土層 5Dグリッド(北壁セクション)の土層図を作成している。

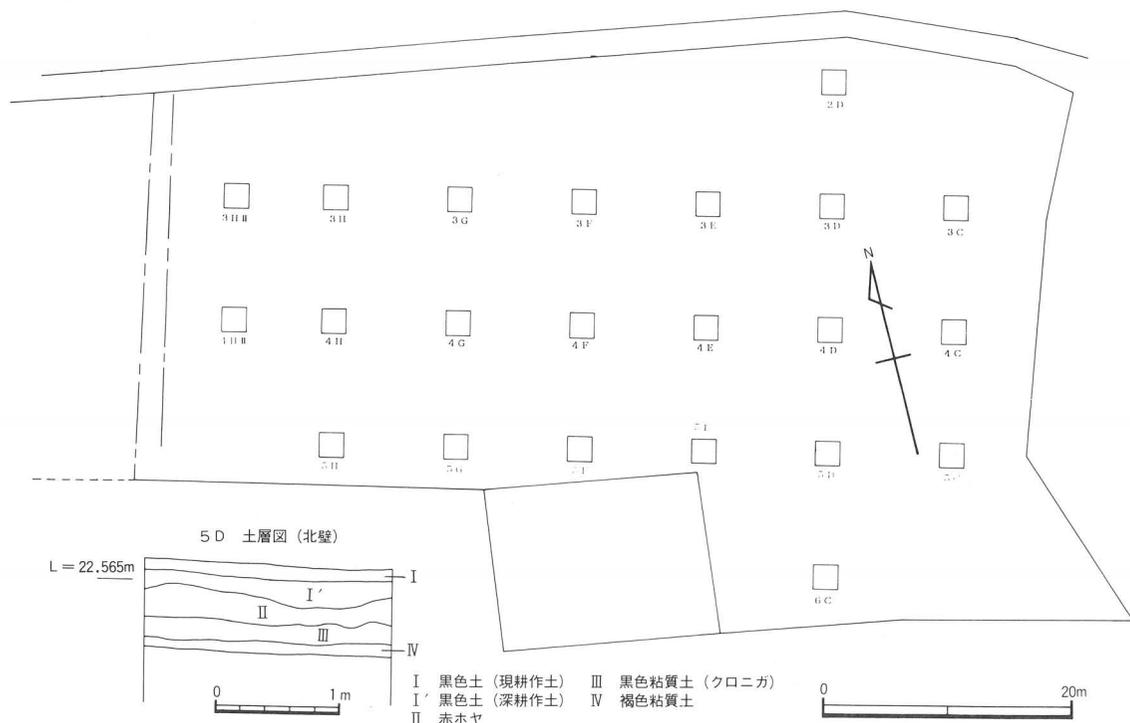


図版22 9号地-2 調査区全景

I層は耕作土であり、現耕作土をI層、従来からの深耕作土をI'層と分けている。

II層には赤ホヤ層が入り、約30cmを測る。赤ホヤ層の上層は黒色土混じりの茶褐色を呈し、下層はザラザラとした砂っぽい黄褐色を呈する。

III層は固い粘土塊及びシラスを含む黒色粘質土層(ニガ土)である。



第34図 9号地-2 グリッド配置図及び土層図

IV層は固い粘土塊及びシラスを含む褐色粘質土層となる。

遺 構 赤ホヤ層上面までは深耕の耕作土があるため、遺構等の検出は不可能であるが、赤ホヤ層の上面において黒色土の落ち込みが見受けられ、溝状遺構、ピット及び住居跡と思われる遺構を確認している。

遺 物 縄文式土器片、石器、石錘及び土師器片を出土しており、遺跡の立地を強く窺わせるものであった。

[第35図 ①~⑩] [図版 34]

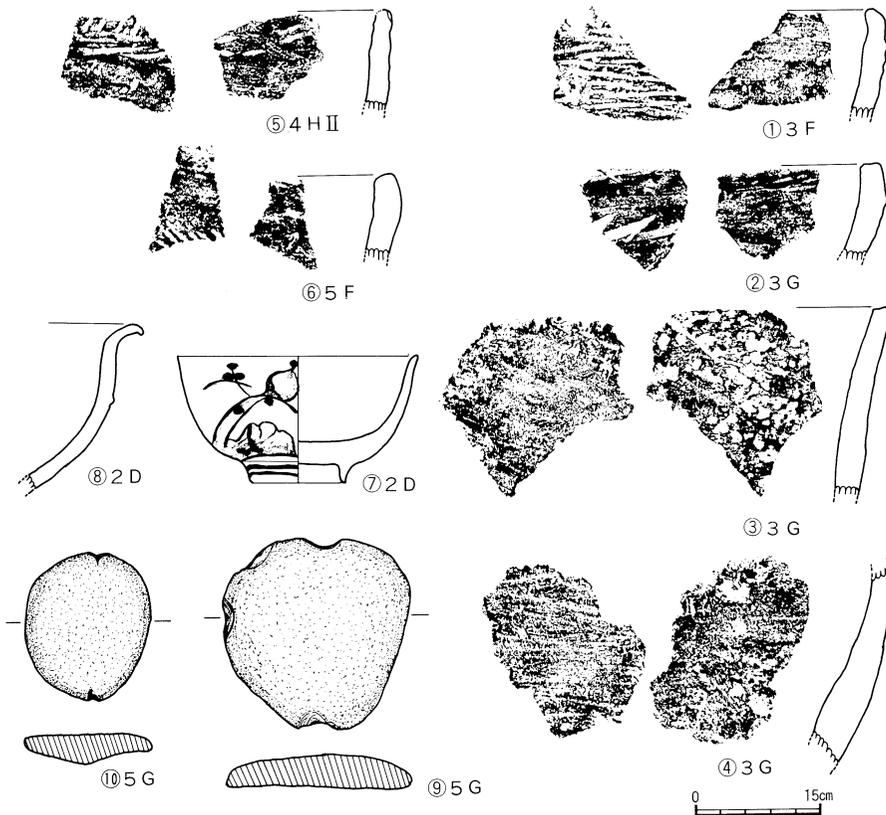
①~⑥は縄文式土器である。

①は口縁部が外傾気味に立ちあがり、口唇部がわずかに内傾する。外面に不規則な沈線文が横位に施文されている。胎土に少量の砂粒を含み、暗赤褐色を呈する。

②は口縁部端部がやや内傾する。口唇部はヘラによる横引き調整がなされている。口縁部外側に稲妻状の沈線文が施文されている。胎土に微砂粒を含み、黄褐色を呈する。

③は無文の粗製深鉢である。口縁部がわずかに外傾し、胴部にいたっても、膨らみは見受けられない。外面に縦状の調整痕が残る。胎土に少量の砂粒を含み、黄赤褐色を呈する。

④は粗製深鉢の胴部であり、下位は底部へと肥厚していく。胎土に砂粒を含み、黄赤褐色を



第35図 9号地-2 出土遺物実測図

呈する。

⑤は口縁部が外傾気味に立ちあがる。口唇部外面に斜行の短沈線がめぐっており、沈線下に横位に条痕的な浅い沈線が見受けられる。胎土にガラス状の微粒子を含み、暗赤褐色を呈する。

⑦は染付け白磁の高台付碗であり、底部から胴部にかけて内湾し、口縁部はやや外開きに立ちあがる。器厚も底部から口縁部へと薄くなっていく。高台は低く、小さい。高台外側に2条の線がめぐり、底部では高台との空間において1条の線がめぐり、脚部の染付け絵柄と一線を画している。

⑧は青磁浅鉢であり、底部を欠く。底部から胴部は内湾し、頸部で屈曲し、口縁部は大きく外反する。口縁部は波状をなす。外面は頸部下に4条の線をめぐらしている。内面胴部には波状文がめぐらされており、底部は数条の円弧が見受けられる。

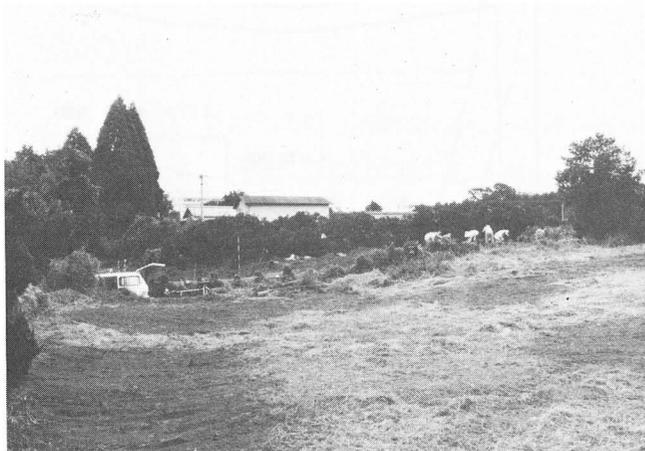
⑨・⑩は自然礫を使った石錘である。⑨は扁平な円礫の両端を打ち欠いて抉入を作ったものである。⑩は小型の扁平な円礫の両端に切り込みを入れたものである。

(3) 9号地-3 (533番地1外)

位置 9号地調査区の南西に位置し、北側は宅地に接し、南は道路を隔てて、8号地-1調査区がある。西は道路により掘り切られている。

試掘トレンチ設定 丘陵中腹部、南緩傾斜地に開かれたみかん園である。したがって、みかん園のスペースを見ての試掘トレンチの設定を行った。

畑地東縁部に幅1.5m、長さ16mの南北方向の1Tを組み、南北軸を4m間隔で区切り、南側からA~Dと表示し、1T-A、1T-Cを試掘している。



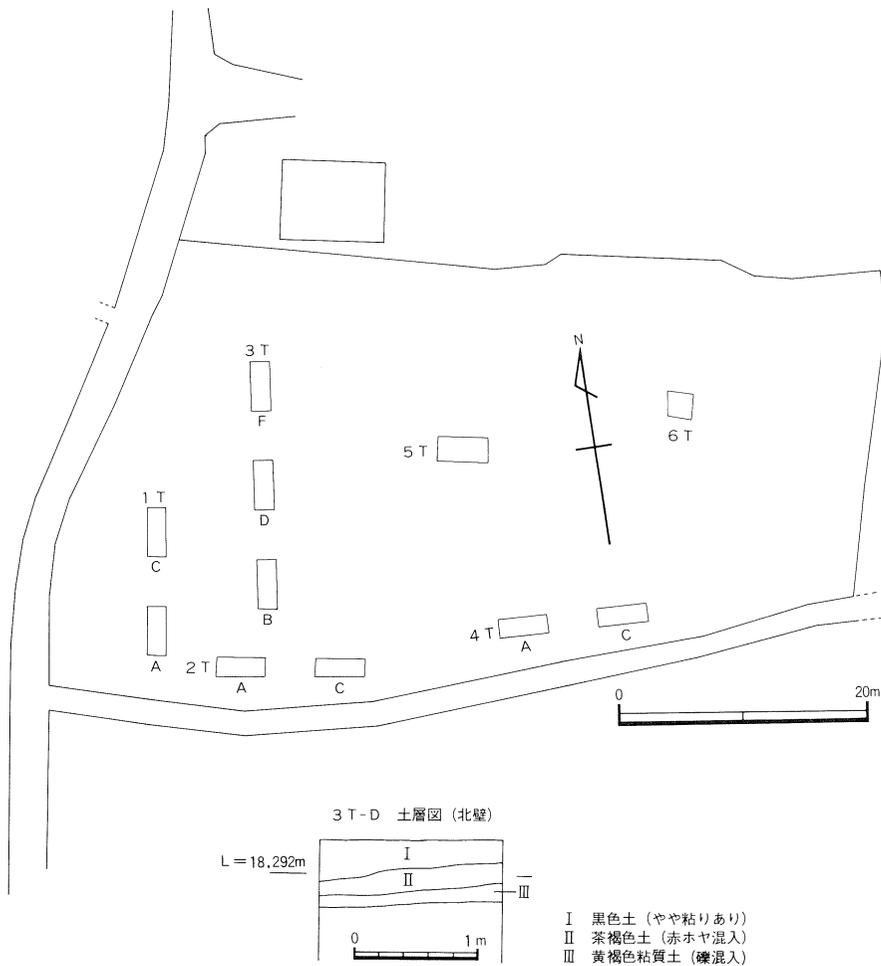
図版23 9号地-3 調査区全景

1Tの東南に、東西方向に同じように2Tを組み、2T-A、2T-Cを試掘している。また、2Tに接して、南北方向に同じように3Tを組み、3T-B、3T-D、3T-Fを試掘している。2Tの西約10m離れて、東西方向に4Tを組み、4T-A、4T-Cを試掘している。調査区中央部に任意に2m×2mの5Tを組み、さらに、東側に離れて、2m×2mの6Tを設定した。

土層 全体的に赤ホヤ層はとばされており、北東側のやや高い位置にわずかに赤ホヤ層が残存する感じである。

3T-Dトレンチ(北壁セクション)の土層図を作成している。

I層はやや粘りのある黒色土層で、II層は赤ホヤ混じりの茶褐色土層となる。III層は黄褐色



第36図 9号地-3 トレンチ配置図及び土層図

粘質土層、IV層は小礫混じりの固くしまった黄褐色粘質土層となる。

遺 構 1 T-C、3 T-F、4 T-Cに黒色土の落ち込みがあり、溝状遺構として見てよいであろう。

遺 物 溝状遺構に伴って、土師器片数点及び礫が出土している。

10号地調査区

字山下に属し、山下事業区の西部に位置する。塩鶴・木崎線の走る低地から北方向に入り込む細長い小谷の東側丘陵にあたり、北側の平畑地区から南側はやや急傾斜地となり、中央部は緩傾斜地、南縁では再び急傾斜地となる。本調査区は全体がみかん園で、面積が広大なため、南北に2分して、南側を10号地-1、北側を10号地-2の調査区と設定した。

(1) 10号地-1 (531番地-一口)

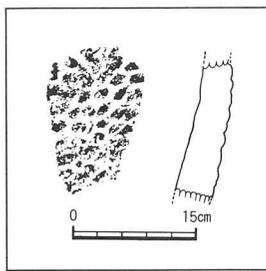
位置 10号地調査区の南半に位置し、南側は段状の急傾斜地となる。西側は小谷への傾斜地となり、東側は道路により掘り切られている。

試掘トレンチ設定 南方向にやや傾斜すみかん園であり、南側に寄るに従って、傾斜度を増す。みかん樹が密植されており、トレンチ配置には苦慮した。試掘トレンチは任意に組み、畑地西側に2.5m×5mの1T、中央部に2m×2mの2T、南西側傾斜地に1m×20mの3Tを設定した。

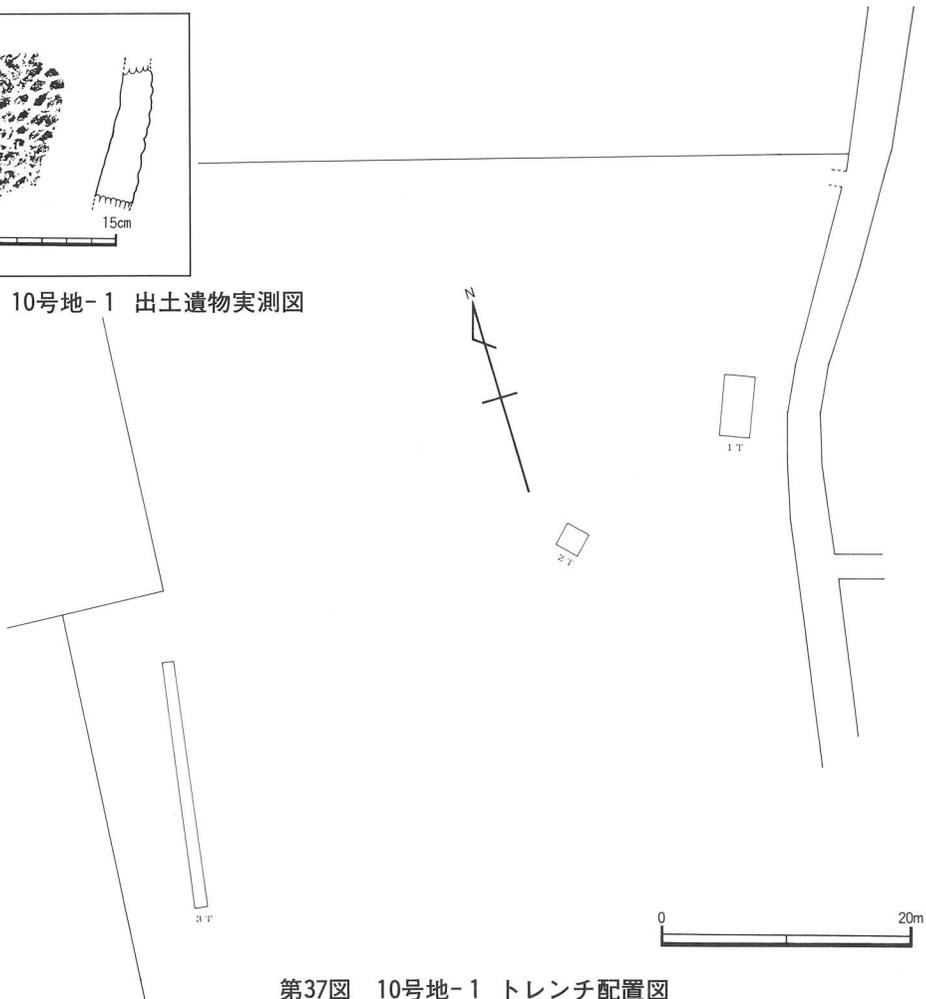
土層 1Tでは赤ホヤ層とはばされており、I層は表土で、やわらかい黒色土層35cm



図版24 10号地-1 調査区全景



第38図 10号地-1 出土遺物実測図



第37図 10号地-1 トレンチ配置図

と下層に約9cmの粘質をもった固い黒色土層が入る。Ⅱ層に黄褐色粘質土層が露出する。

2 TはⅠ層に黒色砂質土層の表土があり、Ⅱ層に赤ホヤ層がわずかに残っている。Ⅲ層には黒色粘質土層が入る。

3 Tは、南傾斜地となり、北側の上部では赤ホヤ層はとばされており、黄褐色土層が露出するが、南側では表土下約16cmで赤ホヤ層が露出する。

遺構 1 T、2 Tにおいて一部黒色土の落ち込みが見受けられるが、明確な遺構としてとらえることはできなかった。

3 Tでは、北側上部においては遺構等の検出はなかったが、南側においては、赤ホヤ層が残り、一部黒褐色土の落ち込みが見受けられ、集石を伴う。また、赤ホヤ層にもぐり込む形での集石も確認されている。

遺物 1 T、2 Tではほとんど確認できなかったが、3 Tにおいては北側上部において、浮いた状態での縄文式土器及び黒曜石を出土しており、南側では集石を4箇所確認している。

[第38図 ①] [図版 35]

縄文式土器の楕円押形文土器である。

(2) 10号地-2 (531番地イ外)

位置 10号地調査区の北半に位置し、南側は10号地-1調査区に接する。西側は小谷への傾斜地となり、北側は事業区外となる。東側は道路で掘り切られている。

試掘トレンチ 東西に長い長方形状
設定 のみかん園があり、北側は傾斜面となり、南側は南東方向にやや傾斜する平坦面が開かれている。

みかん園のスペースを見ての試掘トレンチ配置となった。調査区南側縁部に、東西方向に長軸をもつ幅1.5m、長さ27mの1 Tを組む。また、調査区ほぼ中央に南北方向に長軸をもつ幅1m、長さ9mの2 T、西に2.5m離れて平行に幅1m、長さ6mの3 T、さらに、3 Tの北側3m離れて、3m×3mの4 Tを組む。なお、調査区西側によって、南北方向に長軸をもつ幅1m、長さ14mの4 Tを設定している。

土層 5 T (東壁セクション) の土層図を作成している。

Ⅰ層は、表土層でやわらかい褐色土層となり、約40cmを測る。Ⅱ層は、暗褐色粘質土層が約30cm、Ⅲ層は、黒褐色粘質土層が約30cmで、Ⅱ層Ⅲ層が遺物包含層となっている。Ⅳ層には、



図版25 10号地-2 調査区全景



第39図 10号地-2 トレンチ配置図及び土層図

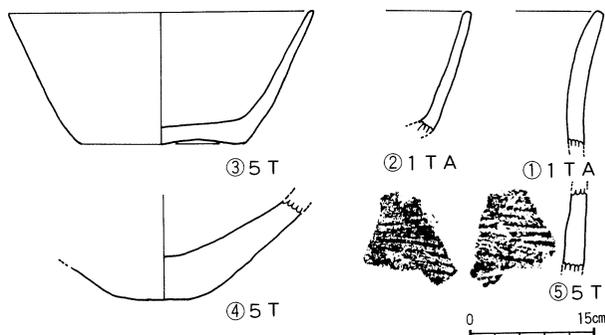
固い黒色粘質土層が薄く入る。V層に赤ホヤ層が入る。

遺構 トレンチ幅が狭いこともあり、明確な遺構の確認はできないが、黒色土の落ち込みが数箇所見受けられた。遺物の出土状態から見ると、住居跡等の存在が想定されるところである。

遺物 1 Tからは土師器片数点が出土するとともに、剥片も出土した。2 T、3 T、4 Tからは近世陶磁器片数点の出土であり、他の遺物の出土は見られなかった。5 Tは土層も安定しており、黒色粘質土層から土師器片がプライマリーな状態で出土している。

[第40図 ①~⑤] [図版 36]

①~④は土師器であり、⑤は縄文式土器である。



第40図 10号地-2 出土遺物実測図

①は口縁部が外反気味に立ちあがる甕である。器面が粗れているため、調整痕は不明である。胎土に多くの砂粒を含み、焼成も悪く赤褐色を呈する。

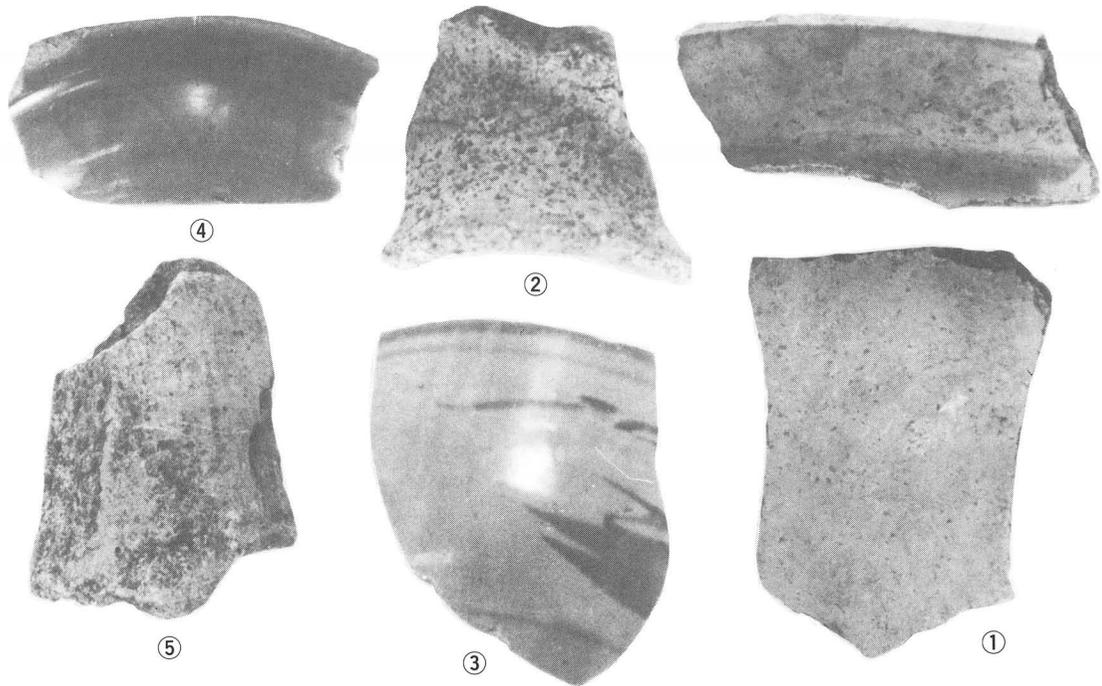
②は湾曲はなく、直線的に外開きとなる碗である。器面は内外面ともにハケ目調整が見受けられる。胎土は細かく、淡黄褐色を呈する。

③は湾曲はなく、直線的に外開きとなる碗である。底部はヘラ切り離しで、器面は内外面ともハケ目調整が見受けられる。胎土は細かく、淡黄褐色を呈する。

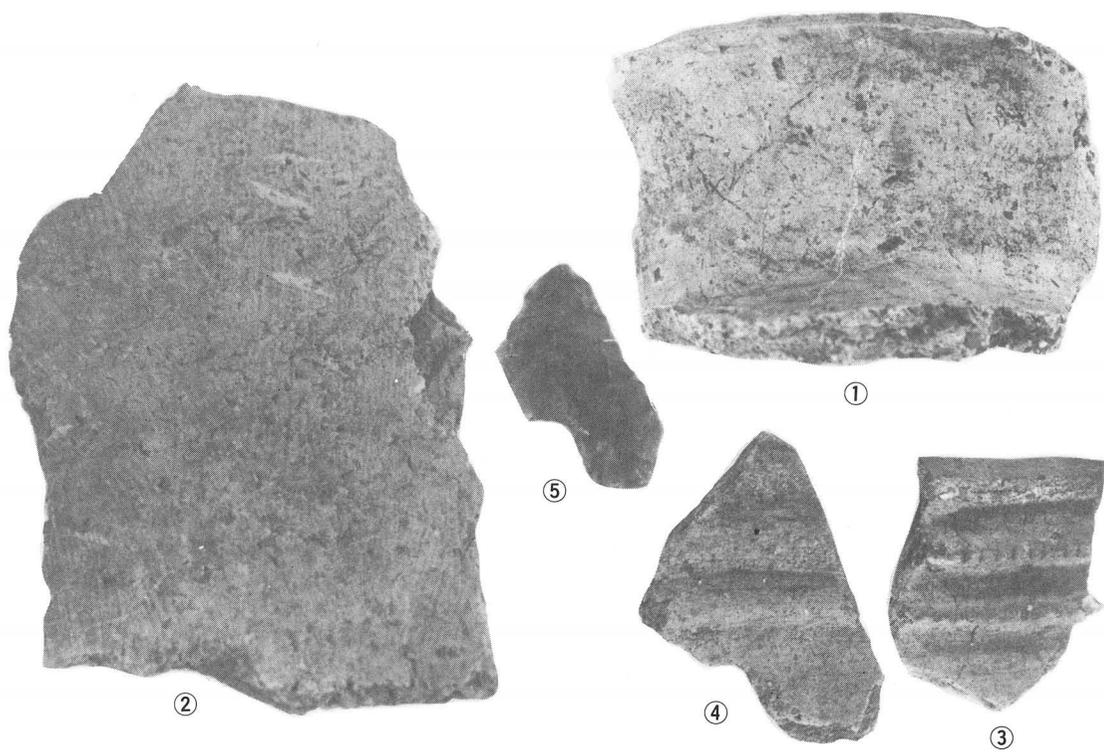
④は甕底部であり、丸底をなす。底部に1本の沈線が刻されている。胎土に砂粒を多く含み、淡赤褐色を呈する。

⑤は口唇部を欠く口縁部と思われる。外面は器面を整形した後に条痕文を施文しているが、内面は粗い条痕文が施文されている。胎土にガラス状の微粒子を含み、赤褐色を呈する。

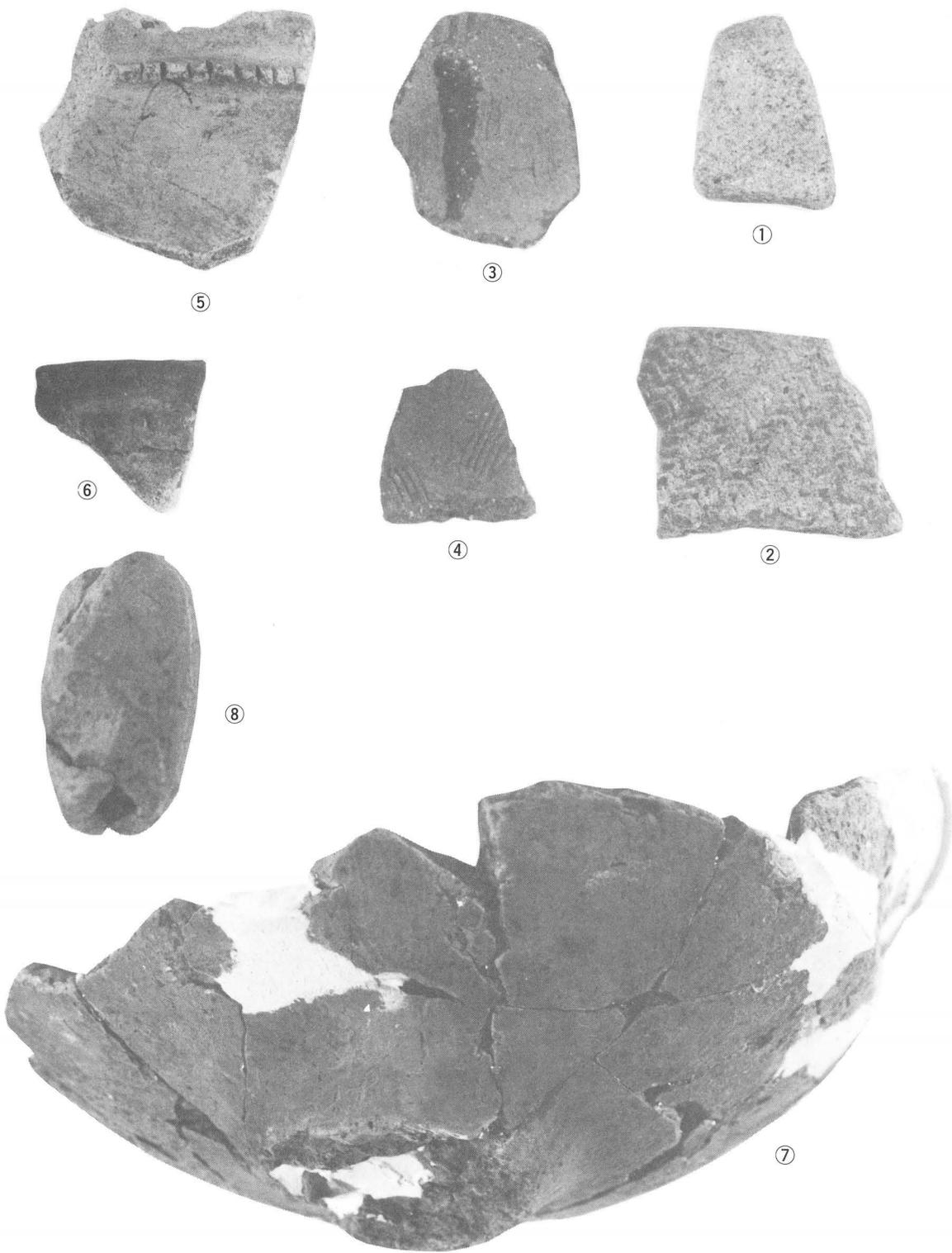
版 図



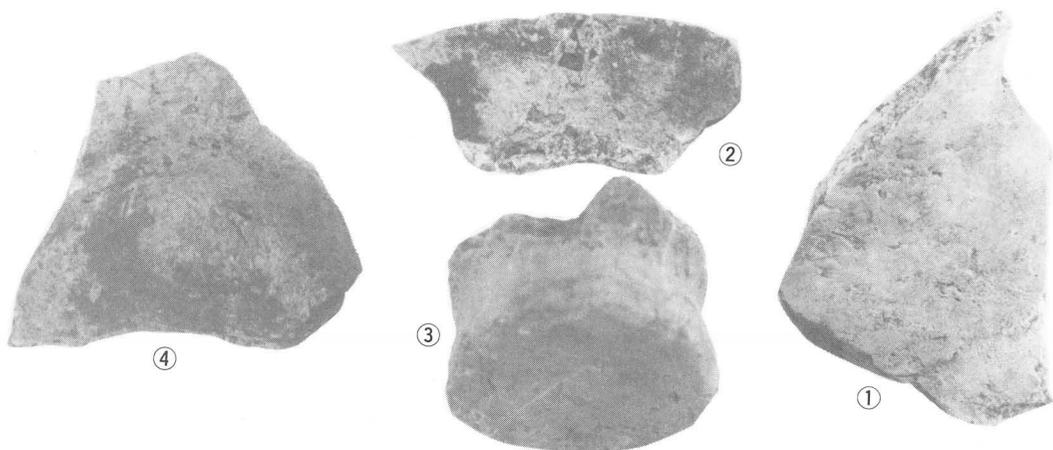
图版26 4号地-1.2.3 出土遗物



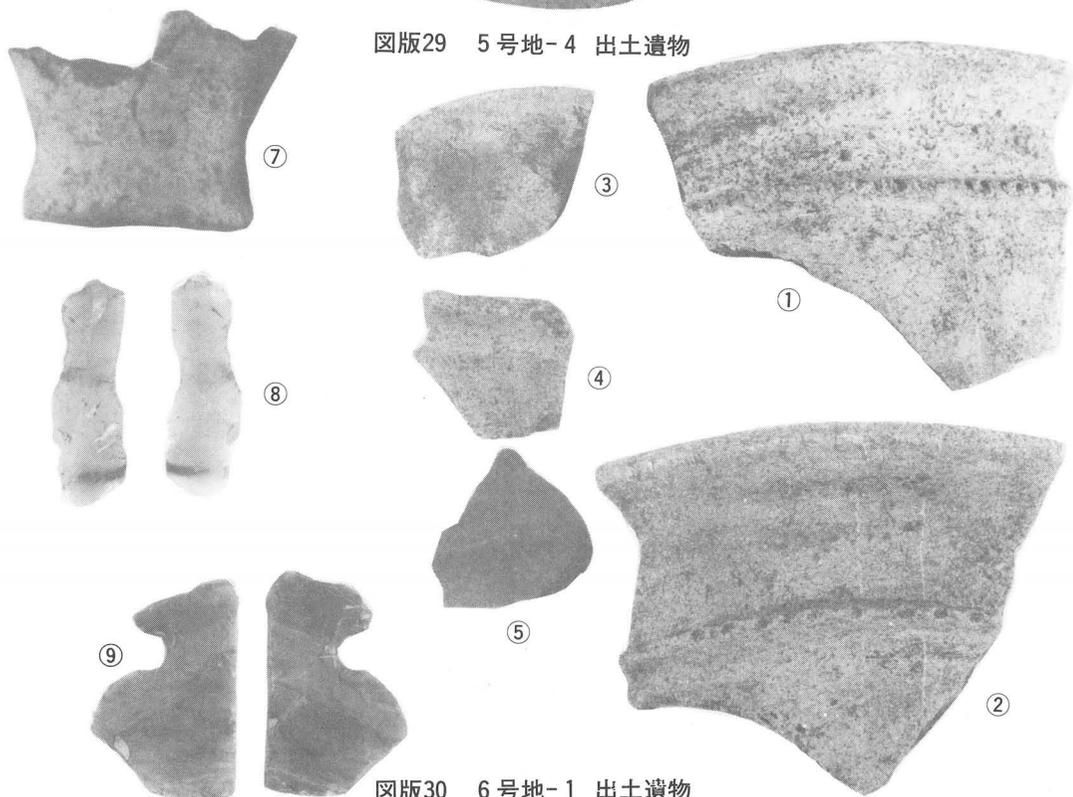
图版27 5号地-2 出土遗物



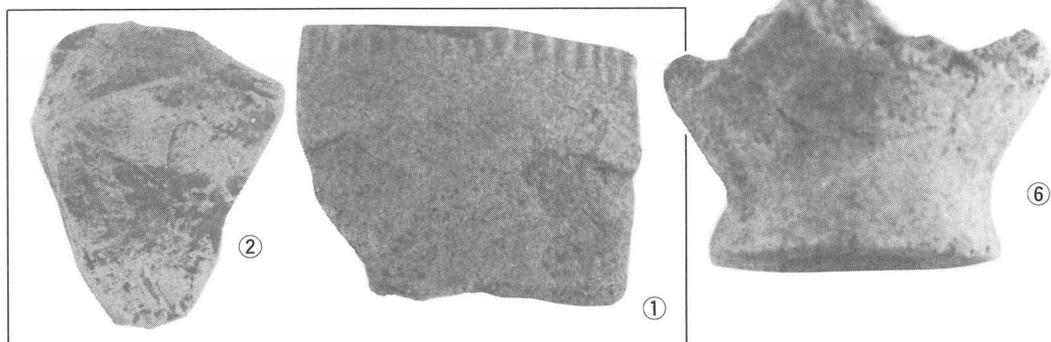
图版28 5号地-3 出土遺物



图版29 5号地-4 出土遺物

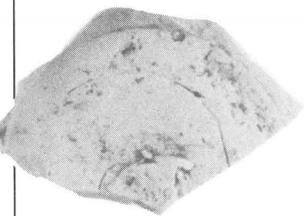


图版30 6号地-1 出土遺物

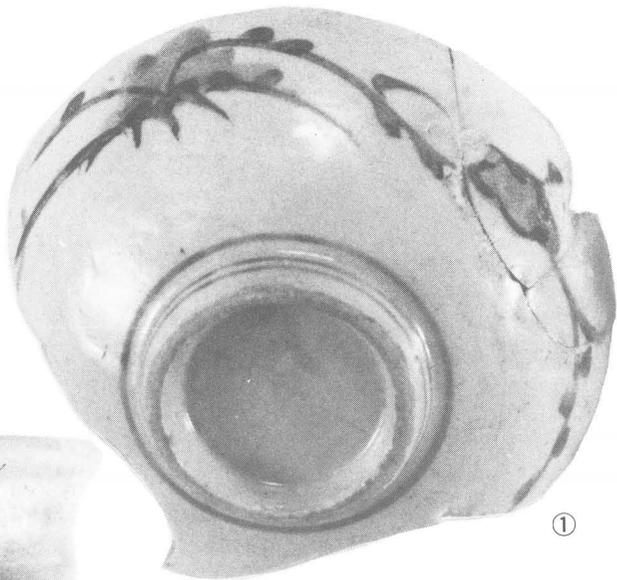


图版31 7号地-1 出土遺物

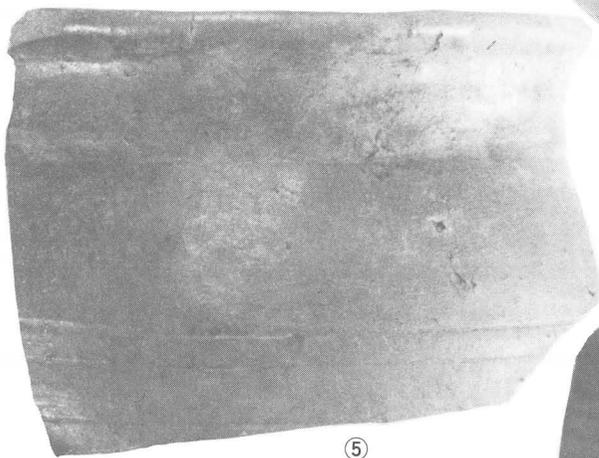
图版 32
 8号地 出土遺物



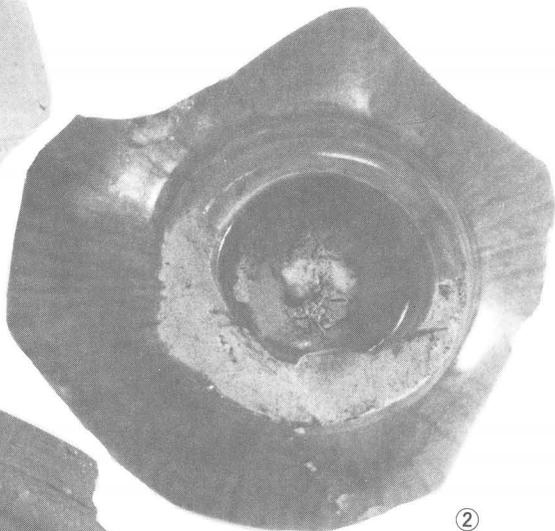
③



①



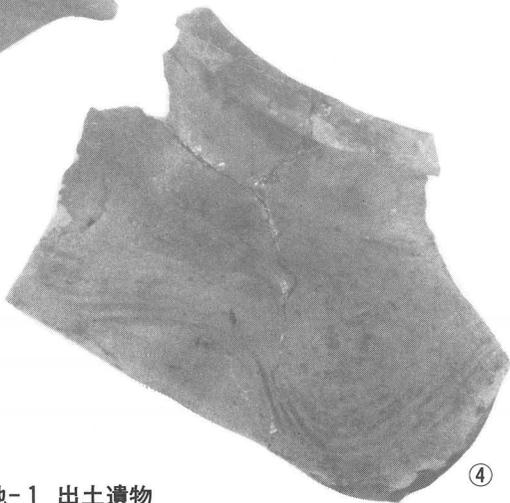
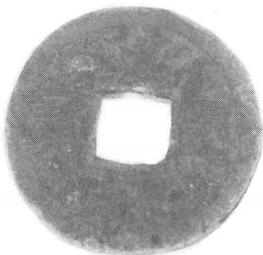
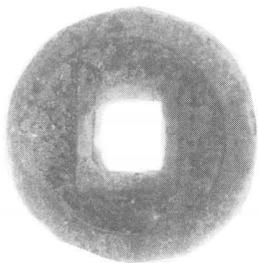
⑤



②

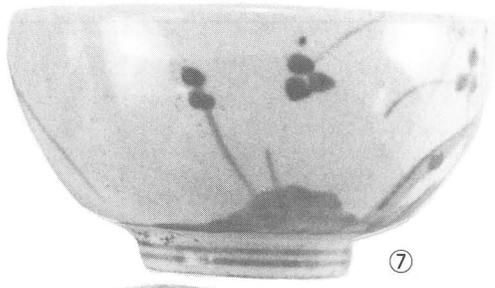


⑥

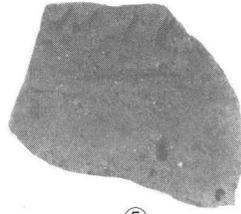


④

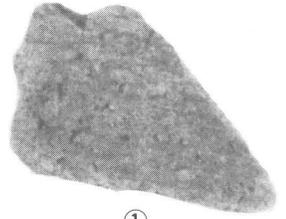
图版 33 9号地-1 出土遺物



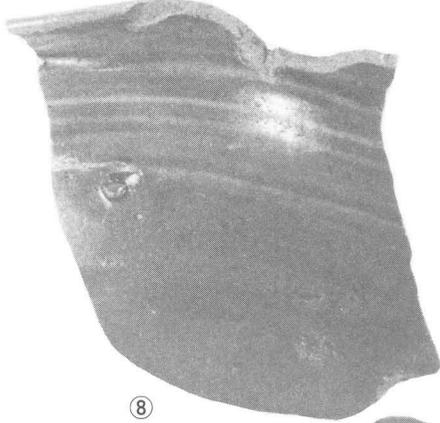
⑦



⑤



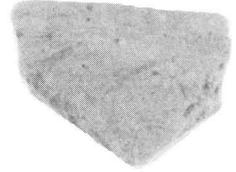
①



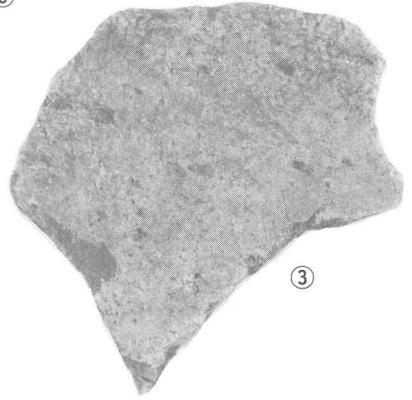
⑧



⑥



②



③



④

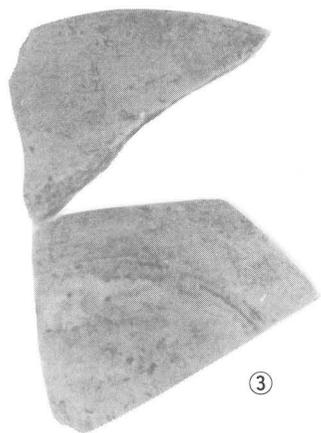


⑩

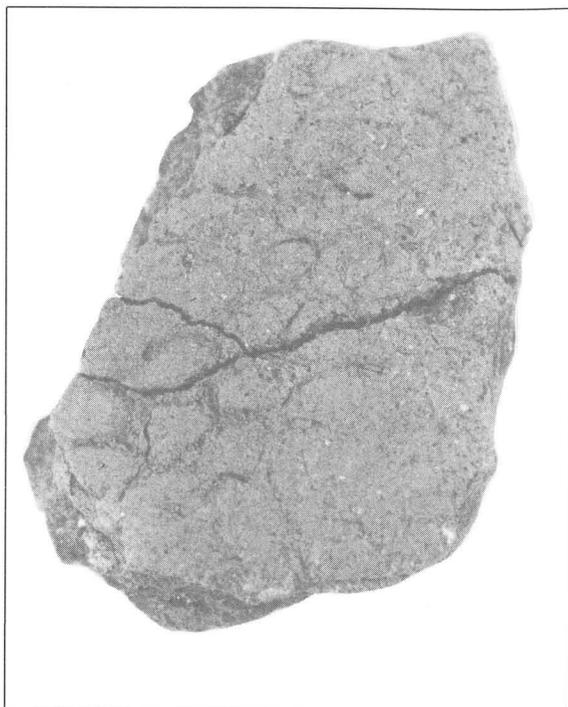


⑨

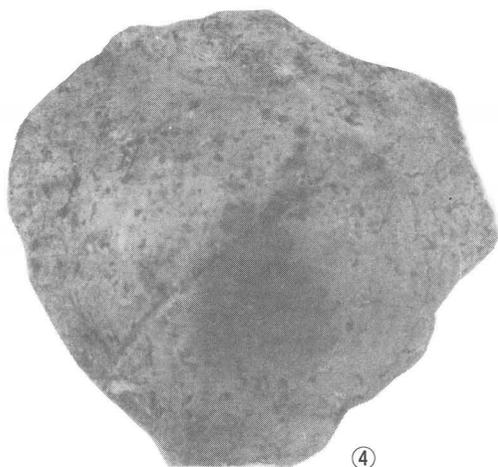
图版34 9号地-2 出土遺物



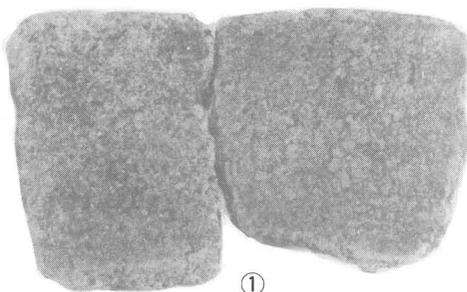
③



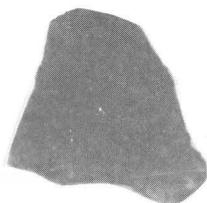
图版35 10号地-1 出土遗物



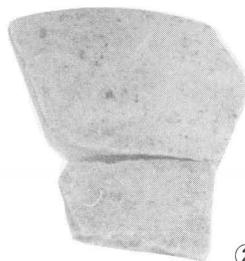
④



①



⑤



②

图版36 10号地-2 出土遗物

車 坂 ・ 山 下 遺 跡

宮崎広域都市計画事業
車坂・山下土地区画整理事業
に伴う遺跡調査概要報告書

1989年3月

発行 宮崎市教育委員会
印刷 合資会社愛文社印刷所

宮崎広域都市計画事業宮崎車坂・山下土地区画整理事業現況図

縮尺 1 : 2,000

